第１章　地域福祉計画の策定にあたって

**第１節　計画策定の背景と趣旨**

１　我が国の状況

　近年、我が国では、世界に類を見ない少子高齢社会を迎えており、地域社会や経済活動の形態が縮小し家族形態の変化や個人の価値観の多様化などを背景に、家庭や地域での支え合いが難しい状況になっています。また、子育て家庭の孤立、児童虐待やひきこもり、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者等の増加、生活困窮者の増加など様々な問題が顕在化し、地域福祉を取り巻く環境は一層厳しさを増し、複雑化している状況にあります。

このような社会環境において、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域社会をつくるためには、一人一人が、こころをつなぎ、意欲と持てる力に応じた｢社会の支え手｣となるとともに、限られた資源を持ち寄り、支え合える地域の絆を強化していくことが求められています。あわせて、支援を必要とする住民が抱える多様で複合的な地域生活課題に対応するため、公的な福祉サービスについては、子ども・子育て施策、高齢者施策、障害者（児）施策等の福祉分野の施策を横断的に推進する地域共生社会の体制を整備することが求められています。

　また、ノーマライゼーションや自己決定権の尊重等の理念と本人保護の理念との調和の観点から導入された成年後見制度について、今後、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加、認知症高齢者の増加に伴い、その必要性が高まっていくと考えられます。

２　宮津市の状況と計画策定の趣旨

　本市におきましては、平成29年に高齢化率が40％を超え、国や京都府と比較して、人口減少と少子高齢化が一層進行し、特に、高齢者のいる世帯割合では国や京都府の割合の1.5倍となっており、支援を必要とする高齢者の増加と生産年齢人口の減少に伴う介護の担い手不足への対応が喫緊の課題となるとともに、高齢者や障害者の権利を擁護する取組の強化が求められています。

　また、少子高齢化を背景とした就労環境の変化や核家族化の進行などにより、子どもや子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化しており、子育てを社会全体で支援していくことも必要となっています。

　障害者（児）福祉の分野では、障害のある人が自ら望む地域生活を営むことができるよう、「生活」と「就労」に対する一層の支援が求められています。

　このような状況を踏まえ、これまで分野ごとに行ってきた福祉施策や考え方をより発展的に捉え、地域福祉と各福祉分野の施策が、地域の課題解決や資源の状況に応じて横断的に連携することで、より効果的、効率的に施策を展開していく必要があります。こうした福祉のまちづくりを推進するために「宮津市地域福祉計画」を策定し、併せて、成年後見制度の利用促進の取組を盛り込み、実行することで新しい福祉のまちづくりを推進するものです。

**第２節　計画の位置づけ**

　本計画は、社会福祉法第107条に基づく市町村地域福祉計画であり、児童の福祉、高齢者の福祉、障害者（児）の福祉、健康づくりの各分野の共通して取り組む内容や重点施策を盛り込むことでこれらの計画の上位計画として位置づけ、対象者ごとに整備された「縦割り」の公的福祉サービスを横断的に推進することで地域共生社会の実現を目指すものです。

また、成年後見制度の利用の促進に関する法律第14条に基づく市町村計画とも位置づけるものです。

○各計画との関係イメージ

社会福祉法に基づく市町村地域福祉計画

地域福祉の推進に関して、地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項等を盛り込んだ計画です。

宮津市子ども・子育て支援事業計画

宮津市地域福祉計画

宮津市高齢者保健福祉計画・宮津市介護保険事業計画

宮津市障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画

いきいき健康長寿のまち”みやづ”推進プラン

成年後見制度の利用の促進に関する法律に基づく市町村計画

成年後見制度の利用の促進に関する施策についての基本的な事項を定めた計画です。

○地域福祉と成年後見制度に関する国の動向・法改正

〔地域福祉について〕

◆2016（平成28）年６月に、地域共生社会の実現を盛り込んだ「ニッポン一億総活躍プラン」が閣議決定されました。

◆地域共生社会は、制度や分野ごとに「縦割り」や「支え手」「受け手」の関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を目指すものと位置づけられています。

◆厚生労働省では、「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）（2017(平成29)年２月厚生労働省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部決定）を取りまとめ、改革の骨格の一つとして「地域課題の解決力の強化」を掲げ、その中で、

（１）住民相互の支え合い機能を強化し、公的支援と協働して、地域課題の解決を試みる体制の整備

（２）複合課題に対応する包括的相談支援体制の構築

（３）地域福祉計画の充実

が示されています。

◆このような中で、複合化・多様化した課題を抱える個人や世帯に対する支援や「制度の狭間」の問題など、既存の制度による解決が困難な課題の解決を図るため、地域住民による支え合いと公的支援が連動した、包括的な支援体制の構築を目指して、2017（平成29）年に成立した「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」により、「社会福祉法」が改正（2017（平成29）年６月公布）されました。

◆また、近年、医療介護総合確保推進法、障害者総合支援法、生活困窮者自立支援法、母子保健法、子どもの貧困対策の推進に関する法律、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）、部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消法）及び本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ対策法）等が制定･改正されるなど、基本的人権を守る法律の整備が行われました。

◆市町村においては、地域住民、福祉関係者、行政等が協働し、公的支援とあわせて、地域における生活課題を把握・解決していく包括的な支援体制の整備を進めていくこととし、地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関して共通して取り組むべき事項を盛り込み、福祉分野の上位計画に位置づけられる「地域福祉計画」の策定が求められています。

◆地域福祉計画は、福祉関係の計画はもとより、関係する他の計画（成年後見制度の利用の促進に関する法律に規定する市町村計画など）の策定の際には、地域福祉として一体的に展開することが望ましい分野については、地域福祉計画にも位置づけるなど地域福祉計画を積極的に活用することも考えられるとしています。

〔成年後見制度について〕

◆認知症高齢者やひとり暮らし高齢者の増加に伴い、成年後見制度を必要とする方が増加し、近年、利用者数は増加傾向にあるものの、認知症高齢者の増加に比較するとその利用は低いものとなっていることから、2016（平成28）年５月に、成年後見制度の利用の促進に関する法律が施行され、市町村においては、国の成年後見制度利用促進基本計画を勘案した基本的な計画を策定するとの努力義務の規定が設けられたところです。また、2017（平成29）年３月に、

（１）利用者がメリットを実感できる制度・運用の改善

（２）権利擁護支援の地域連携ネットワークづくり

（３）不正防止の徹底と利用しやすさとの調和

を掲げる国の基本計画が策定されました。

○関係法令

**【**社会福祉法（抜粋）**】**

（地域福祉の推進）

第４条　地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者（以下「地域住民等」という。）は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

２　地域住民等は、地域福祉の推進に当たつては、福祉サービスを必要とする地域住民及びその世帯が抱える福祉、介護、介護予防（要介護状態若しくは要支援状態となることの予防又は要介護状態若しくは要支援状態の軽減若しくは悪化の防止をいう。）、保健医療、住まい、就労及び教育に関する課題、福祉サービスを必要とする地域住民の地域社会からの孤立その他の福祉サービスを必要とする地域住民が日常生活を営み、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される上での各般の課題（以下「地域生活課題」という。）を把握し、地域生活課題の解決に資する支援を行う関係機関（以下「支援関係機関」という。）との連携等によりその解決を図るよう特に留意するものとする。

（市町村地域福祉計画）

第107条　市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定するよう努めるものとする。

(1) 地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項

(2) 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項

(3) 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項

(4) 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

(5) 前条第一項各号に掲げる事業を実施する場合には、同項各号に掲げる事業に関する事項

２　市町村は、市町村地域福祉計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、地域住民等の意見を反映させるよう努めるとともに、その内容を公表するよう努めるものとする。

３　市町村は、定期的に、その策定した市町村地域福祉計画について、調査、分析及び評価を行うよう努めるとともに、必要があると認めるときは、当該市町村地域福祉計画を変更するものとする。

【成年後見制度の利用の促進に関する法律（抜粋）】

（市町村の講ずる措置）

第14条　市町村は、成年後見制度利用促進基本計画を勘案して、当該市町村の区域における成年後見制度の利用の促進に関する施策についての基本的な計画を定めるよう努めるとともに、成年後見等実施機関の設立等に係る支援その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

２　市町村は、当該市町村の区域における成年後見制度の利用の促進に関して、基本的な事項を調査審議させる等のため、当該市町村の条例で定めるところにより、審議会その他の合議制の機関を置くよう努めるものとする。

「地域福祉」とは、　　　　　　　　　　「成年後見制度」とは、

子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、誰もが住み慣れた地域で、自立した生活を送ることができるよう、地域住民が、様々な活動により、共に支え合い、助け合うことです。

その仕組をつくり、持続するには、市民一人ひとりの努力（自助）、住民同士の相互扶助（共助）、公的な制度（公助）の連携が必要です。

認知症、知的障害、精神障害等の理由で判断能力の不十分な方は、財産管理や遺産分割協議、福祉サービスの契約行為等を必要とするとき、自分でこれらのことをするのが難しい場合があります。

このような方を保護し、支援するのが成年後見制度であり、法定後見制度（「後見」「保佐」「補助」）と任意後見制度に分類されます。

**第３節　計画の期間**

　本計画の期間は、2019（平成31）年度から2023（平成35）年度までの５年間とします。

　なお、社会経済情勢の変化や制度の見直しなど、地域の状況が大きく変化した場合には、計画期間中においても必要に応じて計画の見直しを行います。

【計画期間】

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 計　　画 | 2019年度  (Ｈ31) | 2020年度  (Ｈ32) | 2021年度  (Ｈ33) | 2022年度  (Ｈ34) | 2023年度  (Ｈ35) | 2024年度  (Ｈ36) |
| 高齢者保健福祉計  画・介護保険事業  計画  障害者計画・障害  福祉計画・障害児  福祉計画  いきいき健康長寿  のまち”みやづ”  推進プラン  地域福祉計画  子ども・子育て  支援事業計画 |  |  |  |  |  |  |

**第４節　計画策定の体制**

　本計画の策定にあたり、学識経験者、関係機関・団体の役職員、保健福祉医療等の関係者で構成する「宮津市地域福祉計画推進協議会」において、計画の内容を協議しました。

第２章　宮津市の現状

**第１節　人口・世帯の状況**

１　総人口の推移

本市の総人口は減少傾向にあり、平成29年度末では18,206人と、平成24年度末に比べて1,858人減少しています。年齢区分別に見ると、64歳までの各年代の人口は減少し続けており、特に、就学前児童数（０～５歳）の減少傾向が顕著となっています。65歳以上の人口では、増加傾向にありましたが、平成29年度末では減少に転じています。

65歳以上の人口の割合である高齢化率を見ると、平成28年度から、40％を超えており、全国の27.7％（平成29年９月末）、京都府の28.6％（平成29年９月末）をいずれも大きく上回っています。

■総人口及び年齢区分別人口の推移　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 総人口 | 20,064 | 19,654 | 19,274 | 18,969 | 18,538 | 18,206 |
| ０～５歳 | 745 | 685 | 673 | 642 | 588 | 576 |
| ６～14歳 | 1,387 | 1,330 | 1,288 | 1,225 | 1,195 | 1,174 |
| 15～64歳 | 10,713 | 10,294 | 9,894 | 9,652 | 9,275 | 9,020 |
| 65～74歳 | 2,996 | 3,176 | 3,263 | 3,256 | 3,293 | 3,262 |
| 75歳以上 | 4,223 | 4,169 | 4,156 | 4,194 | 4,187 | 4,174 |
| 高齢化率(市) | 35.9％ | 37.3％ | 38.4％ | 39.3％ | 40.4％ | 40.8％ |
| 高齢化率(全国) | 24.1％ | 25.1％ | 26.0％ | 26.7％ | 27.3％ | 27.7％ |
| 高齢化率(府) | 24.7％ | 25.8％ | 26.9％ | 27.6％ | 28.1％ | 28.6％ |

資料：住民基本台帳人口　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（各年度末現在）

　※住民基本台帳法の一部改正（平成24年7月9日施行）により人口には外国人を含みます。

■地区別人口の推移　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 宮　津 | 9,798 | 9,601 | 9,456 | 9,297 | 9,115 | 8,996 |
| 上宮津 | 1,225 | 1,227 | 1,187 | 1,141 | 1,116 | 1,081 |
| 栗　田 | 2,201 | 2,121 | 2,055 | 1,999 | 1,933 | 1,872 |
| 由　良 | 1,129 | 1,093 | 1,069 | 1,112 | 1,088 | 1,054 |
| 吉　津 | 1,712 | 1,678 | 1,648 | 1,635 | 1,578 | 1,552 |
| 府　中 | 1,901 | 1,886 | 1,868 | 1,833 | 1,813 | 1,798 |
| 日　置 | 729 | 722 | 727 | 708 | 695 | 695 |
| 世　屋 | 114 | 114 | 110 | 111 | 110 | 107 |
| 養　老 | 1,040 | 1,006 | 959 | 940 | 910 | 876 |
| 日ヶ谷 | 215 | 206 | 195 | 193 | 180 | 175 |
| 合　計 | 20,064 | 19,654 | 19,274 | 18,969 | 18,538 | 18,206 |

資料：住民基本台帳人口　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（各年度末現在）

　　　※住民基本台帳法の一部改正（平成24年7月9日施行）により人口には外国人を含みます。

２　世帯数の推移

本市の世帯数は減少し続けており、高齢者のいる世帯は全体の半数を超えています。中でも高齢者単身世帯と高齢者夫婦のみの世帯は大きく増加しています。

■世帯数及び世帯類型の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：世帯）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 平成７年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 |
| 総世帯 | | 8,783 | 8,706 | 8,340 | 8,165 | 7,738 |
| 高齢者のいる世帯 | | 4,164 | 4,475 | 4,558 | 4,590 | 4,634 |
|  | 比率 | 47.4% | 51.4% | 54.7% | 56.2% | 59.9％ |
| 高齢者単身世帯 | | 802 | 1,048 | 1,174 | 1,262 | 1,360 |
|  | 比率 | 9.1% | 12.0% | 14.1% | 15.5% | 17.6％ |
| 高齢者夫婦のみの世帯 | | 1,085 | 1,028 | 1,286 | 1,148 | 1,242 |
|  | 比率 | 12.4% | 11.8% | 15.4% | 14.1% | 16.1％ |

資料：国勢調査

**第２節　子ども・高齢者・障害者・健康づくりの状況**

１　子どもの状況

■出生率の推移

出生率（人口千人あたりの出生数）について、下記の表では表していませんが、昭和55年に14.1でしたが、平成15年には6.3と半分以下に落ち込みました。近年は、全国、京都府の平均を下回っています。

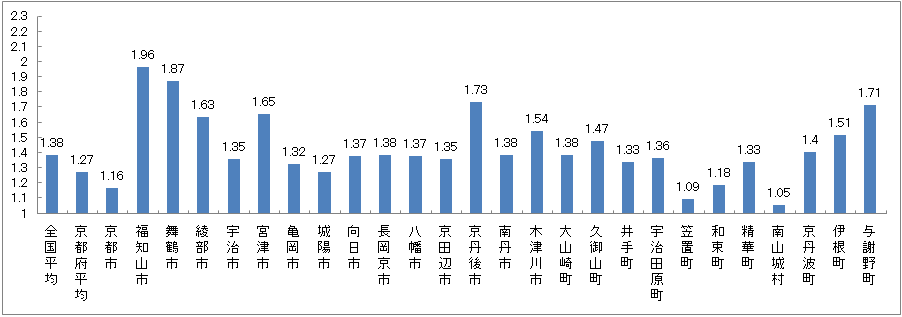
|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 |
| 宮津市 | 5.8 | 5.3 | 5.6 | 5.1 | 4.5 | 4.5 |
| 全　国 | 8.2 | 8.2 | 8.0 | 8.0 | 7.8 | 7.6 |
| 京都府 | 7.8 | 7.8 | 7.6 | 7.7 | 7.6 | 7.3 |

資料：宮津市市政報告書、全国・京都府平均は「人口動態統計」　※出生数は12月末現在の数値

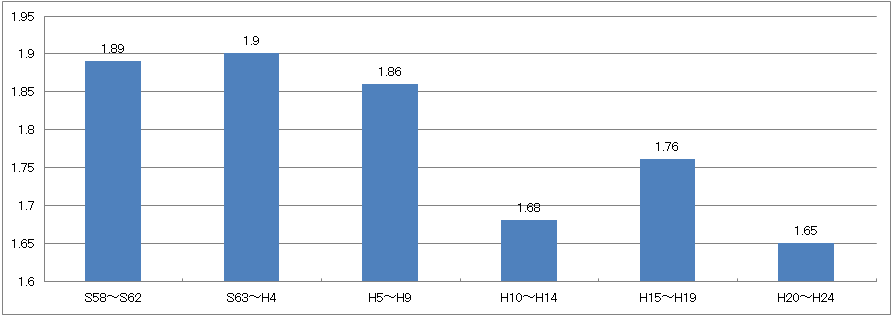
■合計特殊出生率の推移

我が国の合計特殊出生率（１人の女性が生涯に産む子どもの平均数）は、戦後減少を続けてきました。一般に、合計特殊出生率が2.07程度であれば人口は維持するとされています。本市においては平成20～24年（2008～2012年）の平均は1.65です。これは、全国平均の1.42、京都府平均の1.26よりもかなり高い水準だといえます。

平成20年～平成24年合計特殊出生率（ベイズ推定値）



宮津市の合計特殊出生率（ベイズ推定値）の推移



■保育所・幼稚園の入所・入園児童数の推移　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
| 公立保育所 | 38 | 38 | 44 | 38 | 45 | 36 | 31 |
| 私立保育所 | 308 | 295 | 290 | 286 | 287 | 291 | 292 |
| 公立幼稚園 | 70 | 67 | 45 | 58 | 68 | 60 | 58 |
| 私立幼稚園 | 60 | 64 | 57 | 53 | 43 | 41 | 35 |
| 合　　計 | 476 | 464 | 436 | 435 | 443 | 428 | 416 |

資料：宮津市市政報告書（各年度４月１日時点）

■小学校・中学校の児童・生徒数の推移　　　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
| 小学校 | 883 | 858 | 847 | 820 | 791 | 779 | 746 |
| 中学校 | 416 | 402 | 366 | 343 | 313 | 285 | 295 |
| 合　計 | 1,299 | 1,260 | 1,213 | 1,163 | 1,104 | 1,064 | 1,041 |

資料：学校基本調査（各年度５月１日時点）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 母子世帯 | 139 | 139 | 138 | 138 | 124 | 120 |
| 父子世帯 | 19 | 16 | 13 | 13 | 15 | 14 |
| 障害世帯 | 1 | - | - | - | - | - |
| 合　計 | 159 | 155 | 151 | 151 | 139 | 134 |

■児童扶養手当受給者世帯の推移　　　　　　　　　　　　　　　（単位：世帯）

※平成22年８月から受給対象を父子世帯にも拡大（各年度３月末）　　資料：宮津市市政報告書

２　高齢者の状況

■要支援・要介護認定者数の推移

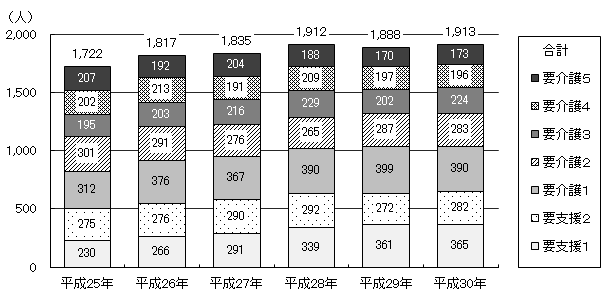
高齢化の進展により、要支援・要介護認定者数が増加し、平成30年は1,913人となっています。要介護度別では、要支援１、要介護１が増加傾向にあります。

要支援・要介護度別認定者の構成比では、近年は重度（要介護３～５）の割合が減少傾向にあり、平成30年では、要介護３～５の占める割合が30.9％となっており、平成24年に比べ4.1ポイント減少しています。また。全国・京都府と比較すると、要支援１、要介護１の認定者の割合が高くなっています。

（単位：人）

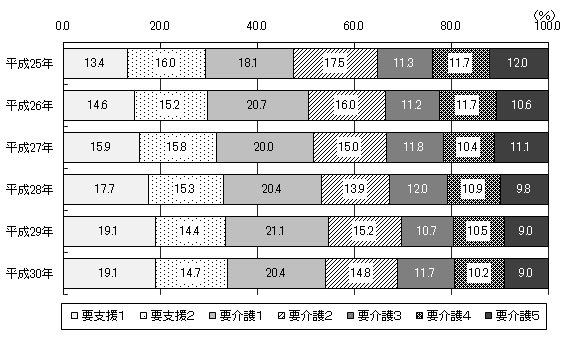
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 |
| 要介護等認定者 | | | 1,677 | 1,722 | 1,817 | 1,835 | 1,912 | 1,888 | 1,913 |
|  | 第１号被保険者  (65歳以上) | | 1,648 | 1,698 | 1,792 | 1,810 | 1,881 | 1,865 | 1,887 |
|  | 前期高齢者 | 131 | 137 | 158 | 147 | 174 | 162 | 163 |
| 後期高齢者 | 1,517 | 1,561 | 1,634 | 1,663 | 1,707 | 1,703 | 1,724 |
| 第２号被保険者  (40歳～64歳) | | 29 | 24 | 25 | 25 | 31 | 23 | 26 |

資料：介護保険事業状況報告（各年９月末）



資料：介護保険事業状況報告（各年９月末）

【要介護度別認定者の構成比の推移】



資料：介護保険事業状況報告（各年９月末）

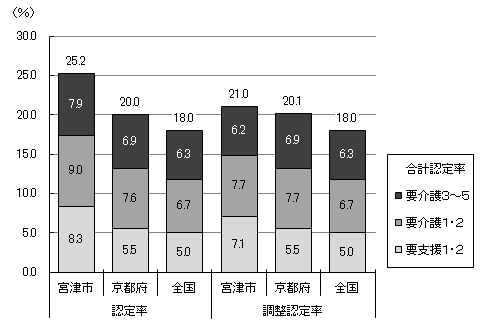
【要介護度別認定者の構成比の比較】

資料：介護保険事業状況報告（平成30年９月末）

■要支援・要介護認定率

　本市の65歳以上人口に占める要支援・要介護認定率は、全国や京都府を上回っています。これは、本市の65歳以上の年齢構成によるところが大きく、国（全国）と同じ年齢構成と仮定して調整した認定率をみると、全国を上回っていますが、京都府とは同程度の水準となっています。

【認定率と調整認定率の比較】



資料：介護保険事業状況報告（平成30年３月末）

３　障害者の状況

■障害者手帳所持者数等の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 身体障害者手帳 | 1,539 | 1,546 | 1,480 | 1,590 | 1,551 | 1,522 |
| 療育手帳 | 223 | 230 | 225 | 230 | 228 | 233 |
| 精神障害者保健福祉手帳 | 101 | 102 | 102 | 105 | 107 | 112 |
| 総数（延べ数） | 1,863 | 1,878 | 1,807 | 1,925 | 1,886 | 1,867 |

※複数の手帳を所持される方があるため総数は延べ数となります。（各年度３月末）

資料：身体障害者手帳交付台帳

【身体障害者手帳所持者の種別推移】　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 視覚 | 98 | 96 | 97 | 99 | 97 | 97 |
| 聴覚・平衡機能 | 157 | 149 | 135 | 151 | 151 | 146 |
| 音声言語 | 23 | 21 | 19 | 20 | 20 | 17 |
| 肢体 | 836 | 844 | 824 | 876 | 851 | 830 |
| 内部障害(心臓・じん臓など) | 425 | 436 | 405 | 444 | 432 | 432 |
| 合計（延べ数） | 1,539 | 1,546 | 1,480 | 1,590 | 1,551 | 1,522 |

※複数の種類で交付を受けておられる方があるため合計は延べ数となります。（各年度３月末）

資料：身体障害者手帳交付台帳

【療育手帳所持者の等級別推移】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 （単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 療育手帳Ａ | 89 | 88 | 84 | 87 | 89 | 94 |
| 〃 　Ｂ | 134 | 142 | 141 | 143 | 139 | 139 |
| 合計（実数） | 223 | 230 | 225 | 230 | 228 | 233 |

資料：市町村別療育手帳保持者数（京都府家庭支援総合センター）（各年度３月末）

【精神障害者保健福祉手帳所持者の等級別推移】　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| １　　級 | 7 | 7 | 5 | 4 | 4 | 5 |
| ２　　級 | 65 | 63 | 66 | 71 | 68 | 69 |
| ３　　級 | 29 | 32 | 31 | 30 | 35 | 38 |
| 合計（実数） | 101 | 102 | 102 | 105 | 107 | 112 |

資料：精神保健福祉手帳交付者数（京都府精神保健福祉総合センター）（各年度３月末）

４　健康づくりの状況

■健康寿命と平均寿命の推移

　健康寿命を平均寿命に近づけるという目標の中で、その差は、平成24年度と比べると、男性で0.26歳、女性で0.93歳短くなっています。

（単位：歳）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 健康寿命 | 男性 | 78.24 | 79.21 | 79.44 | 78.31 | 78.19 | 78.18 |
| 女性 | 82.37 | 82.92 | 82.91 | 83.34 | 82.24 | 82.76 |
| 平均寿命 | 男性 | 80.02 | 80.88 | 81.11 | 79.92 | 79.63 | 79.70 |
| 女性 | 86.18 | 86.11 | 85.94 | 86.29 | 85.05 | 85.64 |
| 平均寿命  －健康寿命 | 男性 | 1.78 | 1.67 | 1.67 | 1.61 | 1.44 | 1.52 |
| 女性 | 3.81 | 3.19 | 3.03 | 2.95 | 2.81 | 2.88 |

資料：健康増進課調（各年度３月末）

■健診受診率の推移

　近年の傾向としては、健康意識の高まりにより健診受診率は上昇傾向にあります。特に、平成28年度に健診の受診料を無料としたことで、特定健診で4.9％、がん検診で3.1％から8.9％上昇しています。

（単位：％）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 特定健診 | 32.4 | 34.7 | 36.0 | 39.2 | 44.1 | 45.6 |
| 胃がん健診 | 18.0 | 18.7 | 17.9 | 17.5 | 20.6 | 18.8 |
| 子宮がん健診 | 27.7 | 29.3 | 29.9 | 30.6 | 35.1 | 36.2 |
| 肺がん健診 | 32.4 | 34.0 | 34.8 | 36.3 | 40.7 | 39.0 |
| 乳がん健診 | 33.7 | 35.7 | 35.7 | 36.3 | 43.0 | 42.5 |
| 大腸がん健診 | 27.4 | 29.4 | 30.3 | 32.0 | 40.9 | 39.4 |
| 前立腺がん健診 | 26.1 | 27.9 | 30.1 | 32.2 | 36.9 | 37.2 |

資料：特定検診（特定検診・特定保健指導法定報告結果）

がん検診（宮津市市政報告書）　（各年度３月末）

**第３節　地域福祉活動・福祉サービスの状況**

１　地域福祉活動の状況

（１）自治会の状況

■自治会組織数の推移

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 自治会数 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| 加入世帯数 | 7,166 | 7,143 | 6,988 | 6,921 | 6,782 | 6,752 |
| 加入世帯率(％) | 80.7 | 81.5 | 80.1 | 80.5 | 78.1 | 78.6 |

※いずれも宮津市自治連合協議会に未加入の２自治会を除く。　　　　　　（各年度年度当初）

（２）民生児童委員の状況

■民生児童委員数の推移と活動件数

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 総　数（人） | | 84 | 84 | 84 | 84 | 83 | 83 |
| 活動件数 | 相談支援 | 1,539 | 1,215 | 1,447 | 1,445 | 1,409 | 1,632 |
| 調査活動 | 1,718 | 1,336 | 1,652 | 1,373 | 1,418 | 2,057 |
| 自主活動 | 4,684 | 4,488 | 4,656 | 4,918 | 4,383 | 4,221 |
| 訪問連絡 | 11,948 | 12,358 | 12,897 | 11,935 | 12,553 | 13,687 |

資料：福祉行政報告例（第40民生委員（児童委員）の活動状況）（各年度３月末）

（３）老人クラブの状況

■単位クラブ数、加入者数及び加入率の推移

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 単位クラブ数 | 40 | 36 | 33 | 32 | 30 | 29 |
| 加入者数(人) | 1,602 | 1,481 | 1,396 | 1,356 | 1,268 | 1,255 |
| 加 入 率(％) | 22.6 | 20.5 | 19.0 | 18.3 | 16.5 | 16.2 |

※加入率は65歳以上の人口比　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（各年度年度当初）

（４）ボランティアの状況

■宮津市社会福祉協議会ボランティアグループ及び会員の推移

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| グループ数 | 31 | 30 | 27 | 28 | 31 | 31 |
| 会員数(人) | 373 | 361 | 345 | 352 | 391 | 390 |

（各年度３月末）

■宮津市社会福祉協議会登録サロンの活動の推移

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| グループ数 | 41 | 43 | 45 | 46 | 49 | 43 |
| 延べ実施回数 | 346 | 364 | 381 | 394 | 430 | 483 |
| 延べ参加人数 | 6,824 | 7,216 | 7,397 | 7,246 | 8,139 | 8,662 |

資料：宮津市社会福祉協議会事業報告書（各年度３月末）

　　■宮津市災害ボランティアセンターの活動

　　〔平成29年度〕　台風18号被害に伴うもの

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 開設期間 | 平成29年９月19日(火)から９月24日(日)までの６日間 | | |
| 開設時間 | 午前９時から午後４時まで | 開設場所 | 宮津市福祉センター内 |
| 依頼件数 | 延べ21件 | ボランティア数 | 延べ104名 |
| 活動場所 | 滝馬、百合が丘、惣、今福、文珠、日ヶ谷　地区 | | |
| 活動内容 | 床下や庭の泥出し、拭き掃除、室内の片付けなど | | |

　　〔平成30年度〕　７月豪雨被害に伴うもの

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 開設期間 | 平成30年７月10日(火)から７月20日(金)までの11日間 | | |
| 開設時間 | 午前９時から午後３時まで | 開設場所 | 宮津市旧保健センター内 |
| 依頼件数 | 延べ70件 | ボランティア数 | 延べ930名 |
| 活動場所 | 滝馬、池ノ谷、松ヶ岡、住吉、川向、白柏、漁師町、惣、安智、山中、島陰、  文珠、江尻、日置　地区 | | |
| 活動内容 | 床下や庭の泥出し、拭き掃除、室内の片付けなど | | |

２　福祉サービスの状況

（１）保育施設と教育施設の設置状況【平成30年４月時点】

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 地区名 | 区　分 | 施 設 名 | 公私 | 認可年月 | 定員(人) | 摘　　　要 |
| 宮津 | 幼稚園 | 宮津幼稚園 | 公立 | 大正14年※ | 90 |  |
| 宮津 | 幼稚園 | 宮津暁星幼稚園 | 私立 | 昭和11年４月 | 120 |  |
| 宮津 | 保育所 | 亀ヶ丘保育園 | 私立 | 平成18年４月 | 50 |  |
| 宮津 | 保育所 | みずほ保育園 | 私立 | 昭和50年４月 | 70 |  |
| 宮津 | 保育所 | たんぽぽ保育園 | 私立 | 昭和55年４月 | 60 |  |
| 宮津 | 保育所 | 吉津保育園分園 | 私立 | 平成29年９月 | 20 |  |
| 宮津 | 認可外  保育施設 | キッズスクール | 私立 | 平成25年４月 | 35 | 対象：２～５歳児  学童 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 地区名 | 区　分 | 施 設 名 | 公私 | 認可年月 | 定員(人) | 摘　　　要 |
| 上宮津 | 保育所 | 上宮津保育所 | 公立 | 昭和27年４月 | 20 |  |
| 栗田 | 幼稚園 | 栗田幼稚園 | 公立 | 昭和25年４月 | 105 |  |
| 由良 | 幼稚園 | 由良幼稚園 | 公立 | 昭和７年４月 | 70 | 休園中（平成25年～） |
| 吉津 | 保育所 | 吉津保育園 | 私立 | 平成20年４月 | 50 |  |
| 府中 | こども園 | 府中子ども園 | 私立 | 平成28年４月 | 50 |  |
| 日置 | 保育所 | 日置保育所 | 公立 | 昭和54年４月 | 20 |  |
| 世屋 | － | － | － | － | － | － |
| 養老 | 保育所 | 養老保育所 | 公立 | 昭和42年５月 | 45 |  |
| 日ヶ谷 | 保育所 | 日ヶ谷保育所 | 公立 | 昭和28年10月 | 30 | 休所中（平成元年～） |

※宮津幼稚園は、大正４年に宮津町営として認可、宮津尋常高等小学校の校舎を借用して開園。

（２）地域子育て支援施設【平成30年４月時点】　　　　　　　 　（単位：人）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 地区名 | 区　　　分 | 施　　　設　　　名 | 運　　営 | 定員(人) |
| 宮津 | 子育て支援センター | 宮津市子育て支援センター  にっこりあ | 宮津市委託事業 | ― |
| 宮津 | 放課後児童クラブ | 宮津のびのび放課後児童クラブ | 市の直営 | 112 |
| 吉津 | 放課後児童クラブ | 吉津のびのび放課後児童クラブ | 市の直営 | 20 |
| 由良 | 放課後児童クラブ | 由良浜っこ児童クラブ | 地域運営 | 15 |
| 府中 | 放課後児童クラブ | 府中放課後クラブ | 地域運営 | 30 |
| 養老 | 放課後児童クラブ | 養老わいわいクラブ | 地域運営 | 20 |

（３）介護サービス提供事業所の状況【平成30年12月時点】

　■施設サービス　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 種　　　類 | 事業所名 | 定　員 |
| 介護老人福祉施設  （特別養護老人ホーム） | 特別養護老人ホーム青嵐荘 | 50 |
| 特別養護老人ホーム天橋の郷 | 70 |
| 特別養護老人ホーム夕凪の里 | 80 |
| 特別養護老人ホーム安寿の里 | 80 |
| マ・ルート | 60 |
| 介護老人保健施設 | 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑 | 100 |

■居宅・居住系サービス 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 種　　　類 | 事業所名 | 利用定員 |
| 訪問介護 | 社会福祉法人宮津市社会福祉協議会 |  |
| ヘルパーステイション青嵐荘 |  |
| ヘルパーステイション成相山青嵐荘 |  |
| 天橋訪問介護事業所 |  |
| 訪問入浴介護 | 社会福祉法人宮津市社会福祉協議会 |  |
| 訪問看護 | 宮津訪問看護ステーション |  |
| 宮津武田病院訪問看護ステーション |  |
| 訪問リハビリテーション | なぎさ苑訪問リハビリテーション事業所 |  |
| 通所介護 | 天橋園通所介護事業所 | 25 |
| はまなす苑通所介護事業所 | 20 |
| デイサービスセンター青嵐荘 | 40 |
| 天橋の郷通所介護事業所 | 35 |
| エリシオン天橋立 | 23 |
| 天橋の郷通所介護事業所サテライト  Re-style（リ・スタイル） | 15 |
| 通所リハビリテーション | 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑 | 27 |
| 短期入所生活介護 | 天橋の郷短期入所生活介護事業所 | 20 |
| 短期入所老人ホーム青嵐荘 | 10 |
| 特別養護老人ホーム青嵐荘 | 空床利用型 |
| 特別養護老人ホーム夕凪の里 | 20 |
| 短期入所療養介護 | 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑 | 空床利用型 |
| 特定施設入居者生活介護 | 養護老人ホーム成相山青嵐荘 | 60 |
| エリシオン天橋立 | 60 |
| 居宅介護支援 | 社会福祉法人宮津市社会福祉協議会 |  |
| 天橋園居宅介護支援事業所 |  |
| 居宅介護支援事業所青嵐荘 |  |
| なぎさ苑居宅介護支援事業所 |  |
| 夕凪の里居宅介護支援事業所 |  |
| 夜間対応型訪問介護 | 介護レスキュー宮津事業所 |  |
| 認知症対応型通所介護 | ハウゼ天橋通所介護事業所 | 12 |
| グループデイひだまりの家 | 12 |
| 小規模多機能型居宅介護 | はごろも苑みやづの家 | 24 |
| 認知症対応型共同生活介護 | グループホーム天橋の家 | 9 |
| グループホームせいらん | 18 |
| 地域密着型通所介護 | 吉笑庵デイサービス宮津 | 10 |
| デイサービスリハとも | 18 |
| 介護予防支援 | 宮津市地域包括支援センター |  |
| 宮津北部地域包括支援センター |  |

　■介護予防・生活支援サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）

①訪問型サービス

|  |  |
| --- | --- |
| 種　　　　　類 | 事業所名 |
| 訪問介護相当サービス | 訪問介護事業所により実施 |
| 訪問型サービスＡ  （緩和した基準によるサービス） | 社会福祉法人宮津市社会福祉協議会 |
| 公益社団法人宮津与謝広域シルバー人材センター  (宮津市委託事業) |

　②通所型サービス

|  |  |
| --- | --- |
| 種　　　　　類 | 事業所名 |
| 通所介護相当サービス | 通所介護事業所により実施 |
| 通所型サービスＣ  （短期集中予防サービス） | 社会福祉法人北星会（宮津市委託事業） |

　（４）市民が利用している丹後圏域の障害福祉サービス・障害者支援施設の状況

【平成30年12月時点】（単位：人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| サービス種別 | 事 業 所 等 名 | 定　員 |
| 居宅介護  重度訪問介護 | ヘルパーステーション 結 |  |
| （福）宮津市社会福祉協議会 |  |
| 天橋訪問介護事業所 |  |
| 児童生活支援センター「すてっぷ」 |  |
| （福）伊根町社会福祉協議会 |  |
| 同行援護 | （福）宮津市社会福祉協議会 |  |
| ヘルパーステーション 結 |  |
| 丹後ガイドセンター |  |
| 療養介護 | （府外） |  |
| 生活介護 | みやづ作業所 | 12 |
| すまいる | 15 |
| うえーぶ | 10 |
| マ・ルート | 6 |
| つむぎ | 20 |
| 宮津与謝聴覚言語障害者地域活動支援センター | 20 |
| 短期入所 | 短期入所事業「いきいき」 | 4 |
| 障害児（者）多機能型生活支援センターろむ | 4 |

（単位：人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| サービス種別 | 事 業 所 等 名 | 定　員 |
| 短期入所 | あゆみが丘学園 | 6 |
| 京都府立医科大学附属北部医療センター | 空床利用型 |
| 重度包括支援 | ヘルパーステーション 結 |  |
| 共同生活援助 | ホームすみれ | 24 |
| サンホーム | 7 |
| 菜の花ホーム | 19 |
| 自立訓練（生活訓練） | 障害児（者）多機能型生活支援センターろむ | 8 |
| 就労移行支援 | すまいる | 8 |
| 就労継続支援Ａ型 | リフレかやの里 | 10 |
| みらい | 20 |
| 就労継続支援Ａ型施設スミレ | 20 |
| ハウオリ宮津 | 10 |
| 就労継続支援Ｂ型 | みやづ作業所 | 28 |
| すまいる | 17 |
| 工房シーガル | 10 |
| マ・ルート | 10 |
| 伊根の里 | 20 |
| 野田川共同作業所 | 26 |
| リフレかやの里 | 10 |
| つむぎ | 20 |
| ワークセンター花音 | 20 |
| 施設入所支援・生活介護 | あゆみが丘学園 | 80 |
| いきいき | 30 |
| 障害者相談支援 | 障害者生活支援センターかもめ |  |
| 障害者生活支援センター結 |  |
| 障害児通所支援 | 児童発達支援センターすずらん | 25 |
| マ・ルート | 10 |
| 療育教室「わんぱくクラブ」 | 20 |
| あーと・ねっと　しーど | 10 |
| 障害児相談支援 | 児童発達支援センターすずらん |  |
| こども発達支援相談室ぶんぶん |  |

第３章　地域福祉推進の理念と目標

**第１節　基本理念**

**ささえあい　安全に安心して暮らせる**

**福祉のまち　みやづ**

子どもからお年寄りまでのすべての市民が、あたたかいこころを養い、みんなで支え合い、助け合う中で、だれもが住み慣れた地域で、一人一人の尊厳が保たれ、いつまでも、安全で安心して、生きがいを持って生活できる地域を実現する、福祉のまちづくりを進めます。

**第２節　基本目標**

　基本理念を実現するため、次の５つの基本目標を設定することとし、次の(1)から(4)について、社会福祉法に基づく市町村地域福祉計画の、(5)について、成年後見制度の利用の促進に関する法律に基づく市町村計画の基本目標とします。

(1) 地域福祉を推進する人づくり

　　地域福祉活動を展開するそれぞれの関係機関・団体と協働し、地域活動の担い手やボランティアの育成、新たな人材の発掘を進めるとともに、学校や地域社会における福祉教育などを通じて次世代の担い手づくりを進めます。

(2) 地域で助け合うつながりづくり

　　複雑・多様化する福祉課題に対応するため、福祉サービス事業所、関係機関・団体とのネットワーク体制を強化し、地域全体で、つながり、支え合い、助け合う地域づくりを進めます。

(3) 安心して生活できる環境づくり

　　住民の主体的な防災・防犯活動を軸としながら、福祉サービス事業所、関係機関・団体とのネットワーク体制の強化等により、さらに安全安心を高める環境をつくるとともに、お互いが尊重し、理解し、助け合う地域づくりを進めます。

(4) 地域での自立を支えるしくみづくり

　　だれもが住み慣れた地域で、いつまでも、安心して、生きがいをもって生活できるよう、福祉サービスの充実を図るとともに、相談支援の窓口が連携を強化し、適切な支援が行える体制の充実を図ります。

(5) 権利と利益を護るしくみづくり

　　認知症高齢者や障害のある人等の権利と利益を護る成年後見制度の利用を促進するとともに、制度が適正に運用されるよう、しくみの構築を図ります。

**第３節　施策の体系**

　本計画の施策の体系は次のとおりです。

　なお、個別施策（取組）において、特に力を入れて取り組む事業は、重点事業として位置づけます。

【地域福祉の取組】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **基本目標** | **基本施策** | **個別施策（取組）** |
| １ 地域福祉を推進する人づくり | １ 地域福祉の担い手の育成 | １ 生活支援コーディネーターの活動支援・協議体の開催　重点  ２ 地域活動などの担い手の育成・支援  ３ ボランティア団体の育成・活動支援 |
| ２ 福祉教育の推進 | １ 福祉教育の推進 |
| ２ 地域で助け合うつながりづくり | １ 地域福祉活動の促進 | １ 見守りネットワークの体制強化　重点  ２ 宮津市社会福祉協議会への支援　重点  ３ 地域福祉の啓発  ４ 民生児童委員及び協力者の活動支援 |
| ２ 地域での交流と生きがいづくりの推進 | １ サロン活動への支援  ２ グループ・サークル活動等の育成支援  ３ シルバー人材センターへの支援  ４ 福祉課題に対応する活動等の促進 |
| ３ 関係機関との連携強化 | １ 市と社会福祉協議会の協働  ２ 福祉関係機関・事業者との連携強化  ３ 地域共生社会の実現のために社会福祉法人等が行う取組への支援 |
| ３ 安心して生活できる環境づくり | １ 防災と防犯の体制の充実 | １ 災害時要配慮者への支援　重点  ２ 地域防災力の向上  ３ 市民の支え合いによる防犯対策の推進  ４ バリアフリー化の推進 |
| ２ 福祉施設と人材の確保 | １ 福祉施設整備の促進  ２ 福祉人材の育成・確保の推進　重点 |
| ３ 権利擁護等の推　　進 | １ 障害等を理由とする差別の解消の推進　重点  ２ 虐待防止の推進 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **基本目標** | **基本施策** | **個別施策（取組）** |
| ４ 地域での自立を支えるしくみづくり | １ 医療・介護・福祉等の連携 | １ 在宅療養多職種連携の推進 |
| ２ 相談支援体制の充実 | １ 相談支援体制の充実  ２ 生活困窮者自立相談支援の推進 |
| ３ 福祉サービスの充実 | １ 子ども・子育て支援の推進　重点  ① 幼児期の学校教育・保育サービスの充実  ② 地域子ども・子育て支援事業等の充実  ③ 子育て情報提供と相談支援体制の充実  ④ 子育て支援のネットワークづくり  　⑤ 専門的な知識等による支援が必要な家庭及び児童への支援体制の充実  ⑥ 妊産婦及び乳幼児の健康の保持・増進  　⑦ 子どもの生きる力の育成に向けた教育環境の整備  ⑧ 家庭や地域の教育力の向上  ⑨ 食育の推進  ⑩ 地域での体験・交流機会の確保  　⑪ 家庭・地域・教育・保育施設等が連携したコミュニティづくり  ⑫ 総合的な少子化対策の推進  ⑬ 子どもの貧困対策の推進  ２ 高齢者支援の推進　重点  ① 地域包括支援センターの機能強化  ② 在宅療養多職種連携の推進　【一部再掲】  ③ 地域ケア会議・個別ケア会議の充実  ④ 認知症総合支援事業の推進  ⑤ 認知症の人とその家族の支援  ⑥ 高齢者の安全確保　【一部再掲】  　⑦ 生活支援コーディネーターの活動支援・協議体の開催　【再掲】  ⑧ 宮津市社会福祉協議会への支援　【再掲】  ⑨ 災害時要配慮者への支援　【再掲】  ⑩ 福祉教育の推進　【再掲】  ⑪ 介護予防・日常生活支援総合事業の推進  　⑫ いきいき健康長寿のまち"みやづ"推進プランの推進  ⑬ 地域活動などの担い手の育成・支援【再掲】  ⑭ ボランティア活動の促進　【一部再掲】  ⑮ 地域密着型サービスの充実 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **基本目標** | **基本施策** | **個別施策（取組）** |
| ４ 地域での自立を支えるしくみづくり | ３ 福祉サービスの充実 | ⑯ 福祉人材の育成・確保の推進　【再掲】  　⑰ 宮津総合実習センターの運営支援  ３ 障害者支援の推進　重点  　① 障害等を理由とする差別の解消の推進  【再掲】  　② 学校等における福祉教育の推進【一部再掲】  　③ 障害児療育の充実  　④ 総合的な就労支援  　⑤ ボランティア団体の育成・活動支援【再掲】  　⑥ 在宅療養多職種連携の推進　【一部再掲】  　⑦ 自立支援給付事業の充実  　⑧ 相談支援体制の充実　【再掲】  　⑨ 移動支援の充実  　⑩ 災害時要配慮者への支援　【再掲】  ４ 健康づくりの推進　重点  　① 健康づくり運動の推進  　② 食による健康づくりの推進  　③ 病気の予防・早期発見の推進  　④ 介護予防の推進  　⑤ 住民主体の取組の推進  　⑥ 他市町住民との交流による機運の醸成  ５　広報活動の強化 |

【成年後見制度の利用促進の取組】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **基本目標** | **基本施策** | **個別施策（取組）** |
| １ 権利と利益を護るしくみづくり | １ 利用者がメリットを実感できる制度の運用 | １ 成年後見制度の周知　重点  ２ 相談機能の強化  ３ 利用者本人の意思決定支援及び身上保護 |
| ２ 地域連携ネットワークの構築 | １ 地域連携ネットワークの構築　重点  ２ 実施体制の整備  ３ 市民後見人の育成及び担い手の確保 |
| ３ 親族後見人等の不正防止の取組 | １ 制度理解のための広報活動の強化と地域住民の見守り意識の醸成　重点  ２ 不正防止のための制度の周知の実施 |

第４章　地域福祉の取組

**第１節　地域福祉を推進する人づくり**

１　地域福祉の担い手の育成

地域福祉活動を展開するそれぞれの関係機関・団体と協働し、地域活動の担い手やボランティアの育成、新たな人材の発掘を進めます。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 生活支援コーディネーターの活動支援・協議体の開催 重点 | 第１層、第２層の生活支援コーディネーターと協議体が中心となり、生活支援サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手などの地域資源の開発、地域づくりのための住民への普及啓発や住民の活動支援を行います。  また、行政と生活支援コーディネーターとの情報共有や生活支援コーディネーター同士の連携強化を図ります。  ※ 第１層生活支援コーディネーターと協議体（宮津市生活支援サービス研究会（介護施設長会議）)は、平成29年度に設置。  ※ 第２層生活支援コーディネーターと協議体は、高齢者保健福祉計画で位置づけられた日常生活圏域（北部・南部）において平成30年度に設置。 |
| ２ 地域活動などの担い手の育成・支援 | 高齢者が介護予防や健康づくりに主体的に関わり、就労やボランティア等を通じて、地域活動等の担い手として積極的に参加できるよう支援します。  また、宮津市社会福祉協議会によるボランティア、サロンリーダー、住民参加型在宅福祉サービスの協力者などの育成、確保の取組を支援します。 |
| ３ ボランティア団体の育成・活動支援 | 社会福祉協議会による市民のボランティアに関する意識の高揚と積極的な参加を促し地域で活動する人材の発掘・育成に努めるボランティア振興事業を支援するとともに、ボランティアセンター機能の強化及びボランティア連絡協議会によるボランティア育成を支援します。  また、高齢者が豊かな経験と知識を社会に還元するため高齢者が参加しやすいボランティア講座の開催等を推進するとともに、地域の方々との交流や気軽にボランティア体験ができる機会を提供します。 |

２　福祉教育の推進

学校や地域社会において、福祉教育などを行い、地域福祉を支える次世代の担い手づくりを進めます。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 福祉教育の推進 | 次代を担う小中学生に対して、高齢者についての理解を深める取組や地域行事、ボランティア活動への参加を通じた地域社会の一員としての意識の向上、さらには、福祉体験学習の福祉教育を推進します。  また、市内の小中学校、地域や事業所等で認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の正しい知識や対応についての理解を深める取組を推進します。  学校における総合的な学習の時間等を活用し、障害疑似体験や障害者施設訪問、障害のある人による講演等を実施するなど、学校等における児童・生徒への福祉教育を推進するとともに、地域社会においても、障害のある人への理解と配慮が進むようサポーターの養成等を推進します。 |

**第２節　地域で助け合うつながりづくり**

１　地域福祉活動の促進

だれもが住み慣れた地域で、いつまでも、安心して、生きがいを持って生活していくため、地域全体で支え合い、助け合う地域づくりに努めます。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 見守りネットワークの体制強化 重点 | | 高齢者や障害のある人の安否確認や異変を早期に発見するため、高齢者等見守りネットワークの参画事業者を拡充するとともに研修等を実施し、見守りや訪問活動等の充実を図ります。  　また、行方不明になる危険のある方には、事前登録をお願いし、ＳＯＳ（徘徊）ネットワーク参画事業者等への早期の情報提供体制を構築するとともに、声かけや発見時の対応力等の向上を図ります。 |
| ２ 宮津市社会福祉協議会への支援 重点 | | 宮津市社会福祉協議会は、行政とともに地域福祉推進の中心的な役割を担っています。  地域や在宅における福祉課題を関係機関等と住民が協力して解決できるよう、宮津市社会福祉協議会を支援します。併せて、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、見守りや日常生活支援の取組に対して支援します。 |
|  | ボランティアの育成・  支援 | ボランティア活動が継続的に展開されるよう、ボランティアの育成を図るため、宮津市社会福祉協議会によるボランティアセンター機能の強化及び宮津市ボランティア連絡協議会の運営を支援します。  ちょっとした困りごとや既存サービスの隙間に対応できる、住民参加型の在宅福祉サービスである「暮らしのかけ橋」事業を支援します。 |
| サロン活動・居場所づくり事業への支援 | 身近にある集会所等において、在宅の高齢者や障害のある人、地域住民を対象に、見守りや介護予防などを目的としたふれあいサロン活動を支援します。  地域住民等が気軽に集える常設のカフェの実施や、ひきこもり、障害等の理由でなかなか就労できない、子どもの勉強場所がない等、課題の解消に向けた居場所づくり事業を支援します。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| ３ 地域福祉の啓発 | 住民に地域の現状を知っていただきながら、日頃の地域での交流・つながりの大切さ、隣近所の助け合いの必要性など、地域福祉の啓発に努めます。  　本市の広報誌への掲載をはじめ、パンフレット、ホームページ等を活用したＰＲ活動を行い、ノーマライゼーションやバリアフリー化、ユニバーサルデザインの普及・啓発に努めます。 |
| ４ 民生児童委員及び協力者の活動支援 | 民生児童委員は、高齢者、障害のある人や介護家族等を見守るネットワークの中心的な役割を担っています。地域住民の最も身近な相談相手であり、自治会・地域住民等の協力も得ながら、地域における活動が確立されるよう、引き続き支援します。  また、宮津市民生児童委員協議会の独自の制度である協力者の活動についても引き続き支援します。 |

２　地域での交流と生きがいづくりの推進

自らが企画・実行することで活動の喜びが高まり、意欲的な取組が継続できることから、これら文化・スポーツ、社会参加活動等の自主的な生きがいづくりを支援します。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ サロン活動への支援 | 地域の交流の場として、子育てサロンやふれあいサロンの活動が充実、拡充されるよう宮津市社会福祉協議会等と連携し活動を支援します。 |
| ２ グループ・サークル活動等の育成支援 | 住民の自主的な学習・文化活動の活性化のために、グループ・サークル活動の育成を図るとともに、子育てグループや老人クラブなどの活動を支援します。  また、学習や文化活動をより楽しく充実できるよう、その成果を発表する機会の創出に努めます。 |
| ３ シルバー人材センターへの支援 | 健康で働く意欲のある高年齢者が豊かな経験、知識、技能などを活かし、働くことを通じての生きがいづくりや社会参加を促進するシルバー人材センターの運営を支援し、就業の場の確保に努めます。 |
| ４ 福祉課題に対応する活動等の促進 | 地域福祉活動を展開される自治会・公民館・隣保館等の活動について、関係機関と連携しながら、支援します。 |

３　関係機関との連携強化

　多様で複合的な課題を抱える住民の福祉ニーズに対応するため、医療、介護、福祉、司法の関係者が連携を強化し、福祉分野が横断的に事業を推進する体制の整備を図るとともに、社会福祉法人等が地域共生社会の実現のために行う自主的な取組を支援します。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 市と社会福祉協議会の協働 | 行政とともに地域福祉推進の中心的な役割を担う宮津市社会福祉協議会との連携をさらに強化し、協働により、地域福祉事業を推進します。 |
| ２ 福祉関係機関・事業者との連携強化 | 福祉分野が横断的に事業を推進するため、子ども・子育て会議、要保護児童対策地域協議会、生活支援サービス研究会(介護施設長会議)、地域ケア会議、障害者自立支援協議会、高齢者等虐待防止ネットワーク運営委員会等を定期的に開催し、関係機関のさらなる連携強化を図ります。 |
| ３ 地域共生社会の実現のために社会福祉法人等が行う取組への支援 | 地域共生社会の実現のため、地域包括ケアの推進や子どもの貧困対策など地域において社会福祉法人等が自主的に行う取組を支援します。 |

**第３節　安心して生活できる環境づくり**

１　防災と防犯の体制の充実

住民の主体的な防災・防犯活動を軸としながら、福祉サービス事業所、関係機関・団体とのネットワーク体制を強化し、安全で安心して生活できる地域づくりを推進します。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 災害時要配慮者への支援 重点 | 災害時において要配慮者への早期連絡、避難誘導、安否確認の体制づくりを図るため、災害対策基本法及び宮津市地域防災計画に基づく災害時要配慮者名簿の作成と、要配慮者の個別避難計画の作成に努めます。  併せて、地域と関係機関・団体等による要配慮者支援に向けた連絡会議を開催し、意見交換、情報共有、研修等を行います。 |
| ２ 地域防災力の向上 | 地域住民の相互の助け合いにより、災害時に避難支援活動等が行えるよう、地域が一体となった防災活動を行う自主防災組織への支援に努めます。 |
| ３ 市民の支え合いによる防犯対策の推進 | 隣近所が互いに声をかけ合うとともに、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、障害のある人がいる世帯等に対する地域での見守り体制を確立するため、周知・広報に努めるとともに、市民の自主防犯組織である各地区あんしんステーションや防犯推進委員協議会、青色防犯パトロールによる活動支援、民生児童委員を通じた訪問等により、地域での見守り体制の維持を支援します。  また、犯罪の発生が予想される時などの緊急連絡網の整備・活用等、住民の自主防犯活動を支援します。 |
| ４ バリアフリー化の推進 | 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」、「京都府福祉のまちづくり条例」等に基づき、だれもが安全で安心して利用できるよう、公共施設の新設・改良をする際には、段差解消やスロープの設置などバリアフリー化を推進します。  民間の施設においても、バリアフリー新法や京都府福祉のまちづくり条例による整備基準に適合するよう啓発を進めます。 |

２　福祉施設と人材の確保

だれもが住み慣れた地域で、いつまでも、安心して、生きがいをもって生活できるよう、福祉サービス提供基盤を整備します。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 福祉施設整備の促進 | サービスを必要とする方に必要なサービスが提供されるようサービス提供基盤を整備します。  ・北部圏域での小規模多機能型居宅介護施設の整備について協議します。  ・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の整備について関係機関と調整します。  ・病児・病後児保育施設の整備について関係機関と調整します。  ・認定こども園（吉津子ども園）の開設（Ｈ31.４月～） |
| ２ 福祉人材の育成・確保の推進 重点 | 福祉人材を確保するため、介護資格の取得や雇用の促進を支援し、京都府の福祉人材確保推進事業と連携して次世代人材の育成に努めるとともに、市内介護サービス事業所や北京都ジョブパークとの共催による雇用促進事業を推進します。  宮津市福祉・教育総合プラザ内に福祉人材コーナーを設置し、市内介護サービス事業所の求人情報、福祉人材の育成、福祉の仕事などの情報発信を行います。  また、福祉職場における処遇改善等の就労環境の向上について国等への働きかけを行います。  平成29年９月に開設した宮津総合実習センターについて、市内関係機関・団体等に対し、利活用の働きかけを行うとともに、京都府及び北部他市町と連携した事業に取り組みます。 |

３　権利擁護等の推進

障害者差別解消法に基づき、障害や障害のある人に対する正しい知識の普及や啓発活動を一層推進するとともに、あらゆる差別の解消に向けた取組を推進します。また、宮津市児童虐待防止ネットワーク、宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク運営委員会を一層充実し、虐待の未然防止、早期発見と迅速な対応を推進します。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 障害等を理由とする差別の解消の推進 重点 | 「障害者差別解消法」の周知を広報誌等や様々な行事等を通じて広く行うとともに、市が行う事務・事業の実施にあたっては、障害のある人が必要とする社会的障壁の除去の実施について、必要かつ合理的に配慮します。  また、障害者や高齢者、外国人等の多様な視点に立ち、思いやりをもって行動できる機運の醸成に努めるとともに、あらゆる差別の解消に向けた取組を推進します。  ・障害者週間　12月３日～12月９日  ・障害者雇用支援月間　９月  ・人権週間　12月４日～12月10日 |
| ２ 虐待防止の推進 | 〔児童虐待対策〕  　要保護児童対策地域協議会により関係機関（保育所、幼稚園、学校、医師会、民生委員・児童委員、弁護士、京都府、警察、法務局、消防等）との連携をさらに強化し、個々のケースに応じて迅速かつ適切な対応が図られるようネットワークの充実に努めるとともに、家庭相談員等の子育てや家庭に関わる相談事業を充実し、気楽に悩みや不安を相談できる体制を整備し、児童虐待の早期発見に努めます。  〔高齢者虐待・障害者虐待〕  　高齢者や障害者の虐待を未然に防止するため、高齢者等虐待防止ネットワーク運営員会などの関係機関との連携・協力をさらに強化します。虐待に関する通報や届出があった場合には、関係機関と連携して速やかに高齢者や障害者の安全確認や虐待防止、保護を行うなどの早期対応を行うことができる体制の充実を図ります。  　また、高齢者虐待や障害者虐待は自覚がない場合もあることを踏まえ、広報・啓発活動により意識啓発に努めます。 |

**第４節　地域での自立を支えるしくみづくり**

１　医療・介護・福祉等の連携

　医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、自宅等の住み慣れた場所で療養し、自分らしい生活を続けられるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進します。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 在宅療養多職種連携の推進 | 高齢者福祉の分野では、多職種協働による在宅医療・介護を一体的に提供し、在宅での看取りも視野に入れた体制づくりを図るため、地域の医療・介護サービス資源の把握と情報共有、対応策を協議するとともに、研修等を実施し、地域の医師会等関係機関との連携をさらに強化します。  障害者福祉の分野では、高齢化が進み、障害の重度化・重複化の傾向が高まる中で、障害のある人が地域で安心して暮らせるよう、在宅医療・福祉分野の関係機関の連携を推進します。  関係機関との連携においては、権利を擁護するため、法律の専門家との連携を強化します。 |

２　相談支援体制の充実

　福祉分野の相談支援窓口がさらに連携を強化し、適切な支援が行える体制の充実を図ります。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 相談支援体制の充実 | 子ども・子育ての総合案内窓口（利用者支援事業）、子育て世代包括支援センター、直営の地域包括支援センター、障害者生活支援センター等を宮津市福祉・教育総合プラザに集約したことによる福祉分野の相談支援窓口の連携強化、適切な支援体制の充実を図ります。 |
| ２ 生活困窮者自立相談支援の推進 | 生活困窮者に対する「くらしの相談窓口」を開設し、相談者に寄り添いながら、相談者の自立に向けて支援を行います。 |

３　福祉サービスの充実

だれもが住み慣れた地域で、いつまでも、安心して、生きがいをもって生活できるよう、各福祉分野のサービスの充実を図ります。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 子ども・子育て支援の推進 重点 | | 誰もが安心して子どもを生み育てられる環境を実現するため、「子育てにやさしいまち　みやづ」を基本理念として、教育・保育・子育て支援サービスの充実を図るとともに、経済的・精神的な子育ての負担感を軽減し、子育て世帯にやさしくすみよいまちづくりを推進します。 |
|  | ① 幼児期の学校育・保育サービスの充実 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針等に基づき、利用者のニーズを踏まえ、幼児期の学校教育・保育に関わる施設や事業の充実を図ります。 |
| ② 地域子ども・子育て支援事業等の充実 | 子育て支援センターや放課後児童クラブの充実、病児病後児保育の導入など、地域全体で子育てを支援していくよう事業の充実を図ります。 |
| ③ 子育て情報提供と相談支援体制の充実 | 保健・福祉・医療・教育などの各主体が連携し、総合的な子育て相談支援体制の充実を図るとともに、様々な媒体の活用を通して子育てに関する情報提供の充実を図ります。 |
| ④ 子育て支援のネットワークづくり | 地域ぐるみによる子育て支援活動を推進するとともに各活動の連携・交流の促進や情報の共有化など子育て支援のネットワークづくりを推進します。 |
| ⑤ 専門的な知識等による支援が必要な家庭及び児童への支援体制の充実 | 児童虐待の未然防止や要保護児童への支援体制の強化を図るとともに、ひとり親家庭への自立支援や障害のある子どもへの適切な療育・教育の支援など、保護者が安心して子どもを育てることができる支援体制の充実を図ります。 |
| ⑥ 妊産婦及び乳幼児の健康の保持・増進 | 妊産婦及び乳幼児の健康の保持・増進の観点から、訪問指導の充実や健診事業の推進、産後ケアの充実に努めます。 |
| ⑦ 子どもの生きる力の育成に向けた教育環境の整備 | 子ども一人一人の個性や創造性を伸ばし、「生きる力」の育成を目指して、指導方法の充実による学力向上や、人権・道徳教育など健やかな心を育む教育活動の充実を図るとともに、地域に根ざした学校づくりを推進します。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
|  | ⑧ 家庭や地域の教育力の向上 | 子どもの成長過程に応じ適切な子育てができるよう家庭教育に関する情報や相談、学習機会を提供するとともに、体験・交流活動機会の充実を図ります。 |
| ⑨ 食育の推進 | 保育所（園）や学校等における食育の取組を充実させるとともに、食育講習会の実施など家庭における食育の取組を推進します。 |
| ⑩ 地域での体験・交流機会の確保 | 「子育ての場」としての図書館や公民館における文化・スポーツ・自然体験活動の実施など、地域での様々な交流・体験活動を推進し、子どもの創造性や社会性を育みます。 |
| ⑪ 家庭・地域・教育・保育施設等が連携したコミュニティづくり | 地域活動の推進、世代間交流の推進など、家庭・地域・教育・保育施設等と行政が連携し、子どもの育ちを支える地域コミュニティづくりを推進します。 |
| ⑫ 総合的な少子化対策の推進 | 結婚から妊娠・出産、子育てに係る総合的な相談・支援を実施し、若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進します。 |
| ⑬ 子どもの貧困対策の推進 | すべての子どもが生まれ育った環境に左右されることなく、その将来に夢や希望を持って成長していけるよう、教育・生活・経済的支援等の施策を推進します。 |
| ２ 高齢者支援の推進  重点 | | だれもが住み慣れた地域で、いつまでも健康でいきいきと生活し、その人らしく幸せに暮らせるよう、みんなで支え合う地域共生社会を実現するため、「地域住民がともに支え合い高齢者も幸せに暮らせるまち みやづ」を基本理念とした高齢者福祉の施策を推進します。 |
|  | ① 地域包括支援センターの機能強化 | 地域包括支援センターの各専門職員の適切な人員体制の確保と資質の向上を図るとともに、センターと行政との役割を明確にした上で、連携強化を図ります。 |
| ② 在宅療養多職種連携の推進  【一部再掲】 | 多職種協働による在宅医療・介護を一体的に提供し、在宅での看取りも視野に入れた体制づくりを図るため、地域の医療・介護サービス資源の把握と情報共有、対応策を協議するとともに、研修等を実施し、地域の医師会等関係機関との連携をさらに強化します。  関係機関との連携においては、権利を擁護するため、法律の専門家との連携を強化します。 |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
|  | ③ 地域ケア会議・個別ケア会議の充実 | 高齢者の個別課題を解決するため、医療・介護等の多職種が協働して、地域の支援ネットワークを構築します。また、地域の支援者である民生児童委員の参画により連携強化を図るとともに、地域課題の把握・解決方法の検討を行い、地域づくりや地域資源の開発などに取り組みます。 |
| ④ 認知症総合支援事業の推進 | 認知症の人やその家族に、容態に応じて必要な医療や介護等のサービスが受けられるよう、「認知症初期集中支援チーム」の初期の支援による、自立生活のサポートを行います。また、認知症地域支援推進員による住みやすい地域づくりの支援を行います。 |
| ⑤ 認知症の人とその家族の支援 | 若年性認知症の人を含む認知症の人の「居場所・生きがいづくり」に対応できる支援体制の整備を図るとともに、その家族の交流の場を創出し、関係機関と連携した支援に取り組みます。また、家族介護者の認知症対応力の向上を支援する取組を推進します。 |
| ⑥ 高齢者の安全確保 | 高齢者の安否確認や異変の早期発見のため、事業所等を対象とした研修を実施するなど、宮津市高齢者等見守りネットワークをさらに充実します。  また、行方不明になる危険のある方には事前登録をお願いし、ＳＯＳ（徘徊）ネットワーク参画事業者等への早期の情報提供体制を構築するとともに、声かけや発見時の対応力等の向上を図ります。 |
| ⑦ 生活支援コーディネーターの活動支援・協議体の開催  【再掲】 | 第１層、第２層の生活支援コーディネーターと協議体が中心となり、生活支援サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手などの地域資源の開発、地域づくりのための住民への普及啓発や住民の活動支援を行います。  また、行政と生活支援コーディネーターとの情報共有や生活支援コーディネーター同士の連携強化を図ります。  ※ 第１層生活支援コーディネーターと協議体（宮津市生活支援サービス研究会（介護施設長会議）)は、平成29年度に設置。  ※ 第２層生活支援コーディネーターと協議体は、高齢者保健福祉計画で位置づけられた日常生活圏域（北部・南部）において平成30年度に設置。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
|  | ⑧ 宮津市社会福祉協議会への支援  　【再掲】 | 宮津市社会福祉協議会は、行政とともに地域福祉推進の中心的な役割を担っています。  地域や在宅における福祉課題を関係機関等と住民が協力して解決できるよう、宮津市社会福祉協議会を支援します。併せて、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、見守りや日常生活支援の取組に対して支援します。 |
| ⑨ 災害時要配慮者への支援 【再掲】 | 災害時において要配慮者への早期連絡、避難誘導、安否確認の体制づくりを図るため、災害対策基本法及び宮津市地域防災計画に基づく災害時要配慮者名簿の作成と、要配慮者の個別避難計画の作成に努めます。  併せて、地域と関係機関・団体等による要配慮者支援に向けた連絡会議を開催し、意見交換、情報共有、研修等を行います。 |
| ⑩ 福祉教育の推進  【再掲】 | 次代を担う小中学生に対して、高齢者についての理解を深める取組や地域行事、ボランティア活動への参加を通じた地域社会の一員としての意識の向上、さらには、福祉体験学習の福祉教育を推進します。  また、市内の小中学校、地域や事業所等で認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の正しい知識や対応についての理解を深める取組を推進します。 |
| ⑪ 介護予防・日常生活支援総合事業の推進 | 支援を必要とする高齢者の自立支援や重度化防止に向けた取組を推進するとともに、地域の社会資源やニーズを踏まえ、地域の特性に合った、様々な担い手によるサービスの提供体制づくりに取り組みます。 |
| ⑫ いきいき健康長寿のまち“みやづ”推進プランの推進 | 「健康づくり運動の推進」「食による健康づくりの推進」「病気の予防・早期発見の推進」「介護予防の推進」「住民主体の取組の推進」「他市町住民との交流による機運の醸成」の６つの柱により市民の健康づくりを推進し、「健康寿命」のさらなる延伸を図ります。 |
| ⑬ 地域活動などの担い手の育成・支援  【再掲】 | 高齢者が介護予防や健康づくりに主体的に関わり、就労やボランティア等を通じて、地域活動等の担い手として積極的に参加できるよう支援します。  また、宮津市社会福祉協議会によるボランティア、サロンリーダー、住民参加型在宅福祉サービスの協力者などの育成、確保の取組を支援します。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
|  | ⑭ ボランティア活動の促進  　【一部再掲】 | 高齢者が、豊かな経験と知識を社会に還元するため、高齢者が参加しやすいボランティア講座の開催等を推進するとともに、地域の方との交流や気軽にボランティア体験ができる機会の提供に努めます。  また、地域の要配慮者を見守り、身近な相談相手である民生児童委員、地域での支え合い、助け合い、居場所づくりを推進するボランティアやサロンの活動を支援します。 |
| ⑮ 地域密着型サービスの充実 | 認知症のため在宅生活が困難な高齢者の住まいの確保が必要となっています。家庭的な雰囲気の中で日常生活の支援や機能訓練を受けることができる認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の整備推進を図ります。 |
| ⑯ 福祉人材の育成・確保の推進  　【再掲】 | 福祉人材を確保するため、介護資格の取得や雇用の促進を支援し、京都府の福祉人材確保推進事業と連携して次世代人材の育成に努めるとともに、市内介護サービス事業所や北京都ジョブパークとの共催による雇用促進事業を推進します。  宮津市福祉・教育総合プラザ内に福祉人材コーナーを設置し、市内介護サービス事業所の求人情報、福祉人材の育成、福祉の仕事などの情報発信を行います。  また、福祉職場における処遇改善等の就労環境の向上について国等への働きかけを行います。  平成29年９月に開設した宮津総合実習センターについて、市内関係機関・団体等に対し、利活用の働きかけを行うとともに、京都府及び北部他市町と連携した事業に取り組みます。 |
| ⑰ 宮津総合実習センターの運営支援 | 市内関係機関・団体等に対し、京都府北部福祉人材養成システム「宮津総合実習センター」の利活用の働きかけを行うとともに、京都府及び北部他市町と連携した事業に取り組みます。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
| ３ 障害者支援の推進  重点 | | 障害のある人もない人も、等しく基本的人権を享受するかけがえのない個人として尊重され、それぞれの役割と責任を持って、共に社会の一員として社会活動に参加し、みんなで支え合う地域共生社会の実現を目指し、「障害のある人もない人も　生き生きと暮らせるまち　みやづ」を基本理念とした障害者福祉の施策を推進します。  また、障害者自立支援協議会において、関係機関の連携のもと、障害のある人の地域生活における課題の把握や対応策を検討するとともに、解決に向けた事業を実施します。 |
|  | ① 障害等を理由とする差別の解消の推進  【再掲】 | 「障害者差別解消法」の周知を広報誌等や様々な行事等を通じて広く行うとともに、市が行う事務・事業の実施にあたっては、障害のある人が必要とする社会的障壁の除去の実施について、必要かつ合理的に配慮します。  また、障害者や高齢者、外国人等の多様な視点に立ち、思いやりをもって行動できる機運の醸成に努めるとともに、あらゆる差別の解消に向けた取組を推進します。  ・障害者週間　12月３日～12月９日  ・障害者雇用支援月間　９月  ・人権週間　12月４日～12月10日 |
| ② 学校等における福祉教育の推進  【一部再掲】 | 学校における総合的な学習の時間等を活用し、障害擬似体験や障害者施設訪問、障害のある人による講演等を実施するなど、学校等における児童・生徒への福祉教育を推進します。  また、障害に対する理解を深めるために障害者自立支援協議会生活部会において、卓球バレーや車椅子体験等の福祉教育を実施します。 |
| ③ 障害児療育の充実 | 障害のある子どもの社会的な自立や発達を促すため、障害児通所支援事業や日中一時支援事業等、身近な地域で支援を受けられるよう体制の充実を図ります。  また、障害者自立支援協議会発達部会において、子どもの発達に関する講演会や保護者・専門職等による交流会を開催します。 |
| ④ 総合的な就労支援 | 障害のある人の一般企業等の就労に向けた支援にあたり、関係機関と連携し、職場定着まで一貫した支援体制の強化を図ります。  また、障害者自立支援協議会就労部会において、障害者雇用についての啓発や障害のある人の就労への意欲と意識の向上を図るための就労支援セミナーを実施します。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
|  | ⑤ ボランティア団体の育成・活動支援  【再掲】 | 社会福祉協議会による市民のボランティアに関する意識の高揚と積極的な参加を促し地域で活動する人材の発掘・育成に努めるボランティア振興事業を支援するとともに、ボランティアセンター機能の強化及びボランティア連絡協議会によるボランティア育成を支援します。  また、高齢者が豊かな経験と知識を社会に還元するため高齢者が参加しやすいボランティア講座の開催等を推進するとともに、地域の方々との交流や気軽にボランティア体験ができる機会を提供します。 |
| ⑥ 在宅療養多職種連携の推進  　【一部再掲】 | 高齢化が進み、障害の重度化・重複化の傾向が高まる中で、障害のある人が地域で安心して暮らせるよう、在宅医療・福祉分野の関係機関の連携を推進します。  関係機関との連携においては、権利を擁護するため、法律の専門家との連携を強化します。 |
| ⑦ 自立支援給付事業の充実 | サービスの利用を希望する人が、必要な時に必要なところでサービスを受けることができるよう、介護給付・訓練等給付に係るサービス提供体制の基盤整備とともにサービス内容の充実を図ります。  また、介護保険制度の対象となる障害のある人について、介護保険担当や介護支援専門員、相談支援専門員と連携し、多様なニーズにきめ細やかに対応し、生活に即したサービス提供を行います。特に、65歳を迎えて障害福祉サービスから介護保険制度に移行したときに、サービスの質や量が低下しないよう、連携を図ります。 |
| ⑧ 相談支援体制の充実【再掲】 | 子ども・子育ての総合案内窓口（利用者支援事業）、子育て世代包括支援センター、直営の地域包括支援センター、障害者生活支援センター等を宮津市福祉・教育総合プラザに集約したことによる福祉分野の相談支援窓口の連携強化、適切な支援体制の充実を図ります。 |
| ⑨ 移動支援の充実 | 屋外での移動が困難な障害のある人に対する移動支援事業、同行援護、行動援護等の外出支援を充実するとともに、すべての人が安全かつ容易に移動できるよう、ノンステップバスやリフト付きタクシーの導入を働きかけます。  また、身体に障害のある人が公共施設等を利用する際に、介助犬等の同伴を拒否されないよう、身体障害者補助犬法の普及・啓発を行います。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
|  | ⑩ 災害時要配慮者への支援　【再掲】 | 災害時において要配慮者への早期連絡、避難誘導、安否確認の体制づくりを図るため、災害対策基本法及び宮津市地域防災計画に基づく災害時要配慮者名簿の作成と、要配慮者の個別避難計画の作成に努めます。  併せて、地域と関係機関・団体等による要配慮者支援に向けた連絡会議を開催し、意見交換、情報共有、研修等を行います。 |
| ４ 健康づくりの推進  　 重点 | | 「健康づくり運動の推進」「食による健康づくりの推進」「病気の予防・早期発見の推進」「介護予防の推進」「住民主体の取組の推進」「他市町住民との交流による機運の醸成」の６つの柱により市民の健康づくりを推進し、「健康寿命」のさらなる延伸を図ります。 |
|  | ① 健康づくり運動の推進 | 歩くことを中心とした運動を習慣化するため、市民主体の身近な健康づくりの場である地区単位の健康広場活動の運営に対して支援するとともに、幅広いメニュー提供や参加しやすい環境づくりなど、健康広場活動の裾野を広げる取組が図れるよう支援します。  また、活動量計を活用し、運動量と健康診断などの指標を分析することで、運動効果の見える化を図り、運動意欲の維持・向上を図ります。 |
| ② 食による健康づくりの推進 | 偏った食生活による栄養の過不足によって起きる生活習慣病やフレイルの改善を図るため、宮津市食生活改善推進員協議会と協働して、減塩習慣やバランスの取れた食事の普及啓発など、食生活の改善指導を実施します。  また、食生活改善推進員の活動を積極的にＰＲし、認知度の向上を図ります。 |
| ③ 病気の予防・早期発見の推進 | 病気を早期に発見するための健康診査及び各種がん検診（胃がん・子宮頸がん・乳がん・肺がん・大腸がん・前立腺がん）の受診率の向上を図るため、受診勧奨等を充実するほか、実施場所の検討や個別受診の拡大など、受診しやすい環境づくりに努めます。  また、健診結果により、事後指導が必要な方に対して保健指導を行います。特に、与謝医師会との連携を図りながら、糖尿病予備群への指導を充実させるほか、メタボ予防の運動教室に食事面からのアプローチを付加するなど、指導内容の充実を図ります。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 個別施策（取組） | | 内　　　　　　　　　　容 |
|  | ④ 介護予防の推進 | 介護予防の必要性と機運の醸成を図るため、地域との協働により、転倒予防教室や腔機能向上教室のほか、定期的に運動教室を実施するとともに、地域住民が自主的に介護予防活動に取り組むことができる体制づくりを推進します。 |
| ⑤ 住民主体の取組の推進 | 地域住民が主体的に健康づくりに取り組めるよう、活動しやすい環境づくりや情報提供を通じて、健康づくりの意識の高揚を図るとともに、ボランティア活動が社会的役割を持つことの重要性について周知を図り、高齢者に対するボランティア参画を促進します。  また、乳がんのセルフチェックなど、日頃から自らできる検診についてその重要性や方法等の周知を図ります。 |
| ⑥ 他市町住民との交流による機運の醸成 | 「健康のまちづくり友好都市連盟」に参画し、他市町との交流、情報交換等を通じて、健康づくり施策の検討、機運醸成を図ります。 |
| ５ 広報活動の強化 | | 広報誌やパンフレット、インターネット等の各種広報媒体を活用し、各福祉分野の制度紹介や福祉マップ等による事業所情報、バリアフリー情報等、市民に身近で有用な様々な情報の提供を行います。  　また、視覚障害のある人に対しては、広報誌みやづやお知らせ版等の音訳テープを作成・配布するとともに、聴覚障害のある人の集まるイベント時等には、手話通訳者及び要約筆記者を派遣し、特性に応じた適切な情報提供を行います。 |

第５章　成年後見制度の利用促進の取組

**第１節　権利と利益を護るしくみづくり**

１　利用者がメリットを実感できる制度の運用

成年後見制度の利用が必要な地域住民が、地域で適切に権利と利益が護られるしくみを構築します。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 成年後見制度の周知  重点 | 支援の必要な方やその家族が成年後見制度を理解することで、制度の早期の利活用につながるよう広報や啓発活動を行います。 |
| ２ 相談機能の強化 | 生活を守り権利を擁護する観点から、支援の必要な方やその家族、地域住民等に対して、成年後見制度の利用に関する相談窓口となる宮津市地域包括支援センターや障害者相談支援事業所の周知を図ります。 |
| ３ 利用者本人の意思決定支援及び身上保護 | 認知症高齢者や障害者等の生活を守り権利を擁護していくため、意思決定の支援や身上保護を重視し、個別の判断能力の状況に応じて、任意後見や補助・保佐・後見の各類型を適切に利用できるよう周知するとともに、相談を受け付けます。 |

２　地域連携ネットワークの構築

新たに、家庭裁判所や後見に関する専門職団体（弁護士会、司法書士会、社会福祉士会等）、福祉サービス事業所、社会福祉協議会、企業等において構成する地域連携ネットワークを構築し、後見人等の支援のため、必要に応じて家庭裁判所との連絡調整を担う中核機関の設置に努めます。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 地域連携ネットワークの構築　重点 | 成年後見制度の活用が必要な方を適切に支援するため、高齢者等見守りネットワーク及び高齢者等虐待防止ネットワーク等の既存のネットワークを活用し、新たに、家庭裁判所や成年後見制度に関する専門職団体（弁護士会、司法書士会、社会福祉士会等）、企業等を加えた地域連携ネットワークの構築に努めます。 |
| ２ 実施体制の整備 | 地域連携ネットワークのコーディネートの中心的役割を担う新たな中核機関の設置に努め、適切に必要な支援につなげるための体制の整備を図ります。中核機関は、事業を効果的に運用するため近隣の市町と共同した設置を検討します。 |
| ３ 市民後見人の育成及び担い手の確保 | 成年後見制度の利用を促進するため、近隣市町との共同により、市民後見人を育成する機会を設け、後見人等の担い手の確保に努めます。 |

３　親族後見人等の不正防止の取組

地域住民、各福祉サービス事業所の職員や企業等に対して、成年後見制度の周知や啓発を行い、地域連携ネットワーク等により見守る体制を整えることにより、安心して制度を利用できる環境を整備する。

|  |  |
| --- | --- |
| 個別施策（取組） | 内　　　　　　　　　　容 |
| １ 制度理解のための広報活動の強化と地域住民の見守り意識の醸成　重点 | 相談体制の整備に加え、市民や福祉サービス事業所の職員、企業等への成年後見制度の周知により、見守りを強化し親族後見人等の不正を未然に防ぐよう努めます。 |
| ２ 不正防止のための制度の周知の実施 | 親族後見人等の理解や知識の不足による不正を防止するため、成年後見制度の理解のための広報や研修会への参加を促すなど、不正を防止する意識の醸成に努めます。 |

**第６章　計画の推進体制**

**第１節　地域福祉活動と福祉サービスの担い手の連携と協働**

　多様な福祉ニーズに対応し、だれもが住み慣れた地域で、いつまでも、安全で安心して、生きがいを持って生活できる地域を実現するためには、本市の取組だけでは不十分です。

地域住民、自治会、民生委員・児童委員、ボランティア団体、福祉サービス事業所、医療機関等、関係するあらゆる個人・団体とのより一層の連携と協働が不可欠であり、本計画を推進していくにあたっては、地域福祉を担う主体が互いに連携し、それぞれの役割を果たしながら協働していきます。

１　市民との連携・地域解決力醸成への取組

　地域課題に対して地域の住民のみなさんが主体的に参加し解決していただくことができるよう福祉懇談会を開催します。また、ボランティアやサロン活動などについて効果的な情報提供ツールを活用した周知に取り組みます。

２　民生委員・児童委員、ボランティア、社会福祉法人、ＮＰＯ、民間事業者、医療機関等との連携及び推進

　生活支援サービスの充実のために設置する第１層及び第２層協議体において、民生委員・児童委員、ボランティア、社会福祉法人、ＮＰＯ、民間事業者等が連携し、地域のニーズと資源の見える化や問題提起、ニーズとサービスのマッチングなど地域の支え合いのしくみづくりを行い、きめ細かな地域福祉活動の展開を図ります。

　また、地域医師会等関係機関との連携を強化し、在宅医療と介護を一体的に提供する体制づくりを推進します。

３　宮津市社会福祉協議会との連携及び推進

　行政とともに地域福祉推進の中心的な役割を担う宮津市社会福祉協議会との連携をさらに強化し、協働により、地域福祉事業を推進します。

４　庁内の連携

　地域福祉の推進には、保健、医療、福祉分野を超えて教育、防災、建設等の担当との横断的な体制が重要であり、関係課との情報連携に努めます。

**第２節　計画の進行管理**

　本計画の円滑な進行を図るため、「宮津市地域福祉計画推進協議会」において進行管理を行うとともに、施策や事業の計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Act）を一連のサイクル（PDCA）とする進捗管理を行い、効果的・効率的な運用に努めます。

　進捗管理は、各個別の計画におけるＰＤＣＡサイクルによる評価をもとに宮津市地域福祉計画に共通する事項を抽出し、評価することにより進めます。

　また、毎年度１回、本計画に基づく事業の実施状況を公表します。

資料編

各地区福祉懇談会の結果

１　開催期間：平成30年７月～10月

２　開催場所：市内14会場（参加者296人）

３　目　　的：ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加する中で、高齢者が住み慣れた地域で、できる限り生活を継続できるよう、今後の生活支援サービスのあり方などを検討するため、福祉懇談会を開催。

４　実施主体：宮津市

宮津市社会福祉協議会、宮津市社会福祉協議会14地区支会

５　対 象 者：社協支会参加者（自治会、民生児童委員、民生委員協力者、サロン運営者、公民館職員、婦人会、老人会、食生活改善推進員、消防団員他）

６　テ ー マ：「いくつになっても住み慣れた地域で

安心して暮らし続けるために

　～わが地区の強みや弱みを知ろう～　」

７　実施状況

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 実施日 | 地区名 | 実 施 場 所 | 参加者数 |
| 1 | 平成30年 ７ 月 ４ 日 | 栗田地区 | 栗田地区公民館 | 22人 |
| 2 | 平成30年 ７ 月23日 | 中部地区 | 魚屋会館 | 15人 |
| 3 | 平成30年 ８ 月 ２ 日 | 府中地区 | 府中地区公民館 | 24人 |
| 4 | 平成30年 ８ 月 ４ 日 | 養老地区 | 養老地区公民館 | 24人 |
| 5 | 平成30年 ８ 月20日 | 城南部地区 | 百合が丘集会所 | 22人 |
| 6 | 平成30年 ８ 月22日 | 日置地区 | 日置地区公民館 | 23人 |
| 7 | 平成30年 ８ 月27日 | 東部地区 | 城東会館 | 23人 |
| 8 | 平成30年 ８ 月29日 | 日ヶ谷地区 | 日ヶ谷地区公民館 | 21人 |
| 9 | 平成30年 ９ 月 １ 日 | 城東部地区 | つつじが丘集会所 | 20人 |
| 10 | 平成30年 ９ 月13日 | 世屋地区 | 世屋地区公民館 | 12人 |
| 11 | 平成30年 ９ 月22日 | 西部地区 | 浪花会館 | 38人 |
| 12 | 平成30年 ９ 月27日 | 由良地区 | 由良地区公民館 | 14人 |
| 13 | 平成30年10月 ３ 日 | 上宮津地区 | 上宮津地区公民館 | 22人 |
| 14 | 平成30年10月24日 | 吉津地区 | 吉津地区公民館 | 16人 |
|  | 合　　　計 |  |  | 296人 |

生活の充足状況調査票

（中部地区：本町、魚屋、新浜、宮本、万町、京街道、大久保、柳縄手、島崎）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） | 柳縄手のごみステーションは皆が正しく分別できている。 |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 独居高齢者はごみが出しにくい。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） |  |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | 買い物が大変（特に、運転ができなくなった人、足腰の弱い人） |
| 移動販売が（ある・ない） | 近くにスーパーがあるがゆえに移動販売車は使いにくい。 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） |  |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） | 通院が大変なケースがある。 |
| バス停まで（近い・遠い） |  |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが  （使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | ・雪かきが大変、特に除雪車が通った後の雪かき。  ・京街道通りは自治会が除雪をしている。  ・新浜、魚屋での除雪が一番の問題。  借りた除雪機不便。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） | 食事づくりが大変 |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） | 冬に１人で入浴することに不安。 |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） | 柳縄手、京街道、大久保で子どもの見守り体制あり。 |
| 祭りが（ある・ない） | 祭りに参加することで地域での繋がりが強い。 |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン … たらちねクラブ（宮本）  島崎仲よし会（島崎）  　　　　　　　　ニコニコサロン(魚屋)  　　　　　　　　いさのサロン（大久保）  サロンのない自治会 … 本町、新浜、万町  　　　　　　　　　　　京街道、柳縄手 |
| 男性サロンが（ある・ない） |  |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンへの後継者が（いる・いない） | 自治会、老人会、サロンの後継者不足 |

生活の充足状況調査票

（中部地区：本町、魚屋、新浜、宮本、万町、京街道、大久保、柳縄手、島崎）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ …  魚屋相生会（魚屋）、万町寿楽会（万町）  京街道なかよし会（京街道）  柳縄手やなぎ会（柳縄手）  島崎仲よし会（島崎）  ※ 男性の参加者が少ない。  老人クラブのない自治会 … 本町、新浜  宮本、大久保 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） | 京街道、万町はグラウンドゴルフが活発 |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） |  |
| その他集まりが（ある・ない） |  |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 42名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | 公民館活動指導員を配置。 |
| 消防団（宮津分団） |  |
| 老人会と自治会共催 | 地域のどぶ掃除、草刈、花の水遣り |
| 有志 | 島崎公園で（火・木・土）に７：30からラジオ体操 |
| その他 | 万町…アパート住まいが多く地域活動に参加する人が少ない。 | |
| 身寄りのない高齢者の保証人・金銭管理等の問題あり。 | |
|  | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票

（西部地区：金屋谷、亀ヶ丘、松ヶ岡、池ノ谷、白柏、浪花、漁師町、日吉、杉末）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） | ・民生委員や自治会長がごみの分別をしている。  ・ゴミ袋対策として何でも捨てられる袋を作ってはどうか。  ・今は問題ないが、今後ごみの分別が困難になる高齢者が出てくる。 |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） |  |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） |  |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | ・亀ヶ丘の独居は家族が買物支援。 |
| 移動販売が（ある・ない） | ・木崎さんや生協で対応。  ・とくし丸は漁師町には入っていない。 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | ・松ヶ岡のサロンでは民生委員、役員等で台風時期の前に訪問している。  ・心配なのは、人とのかかわりを嫌がる人。見守りはしているが、意思を尊重し、声掛けのみ行っている。  ・支援していた協力員も年を取り、徐々に動けなくなる。  ・訪問では、寂しいのか延々と話される。  ・杉末地区では高齢者見守り隊がある。  ・安否確認も含めて、傾聴ボランティアを検討しては。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） |  |
| バス停まで（近い・遠い） |  |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | 除雪の入らない場所あり。地域で高齢者宅の雪かき実施。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） | 体調不良時や骨折等怪我したときの食事確保が難しい。 |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） | 独居の方は入浴が不安。緊急通報装置があっても発見遅れる。 |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） |  |
| 祭りが（ある・ない） |  |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン … ええもん会（金屋谷）  えびす会（松ヶ岡） |

生活の充足状況調査票

（西部地区：金屋谷、亀ヶ丘、松ヶ岡、池ノ谷、白柏、浪花、漁師町、日吉、杉末）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン …  あたご会（池ノ谷）  なにわ・たまりば（浪花）  漁師町ふれあいサロン（漁師町）  ほのぼのサロン会（日吉）  杉の子会（杉末）  ※ 車椅子の方など参加できるようになればよい。  ※ 男性の参加が少ない。  サロンのない自治会 …  金屋谷、亀ヶ丘、松ヶ岡、白柏 |
| 男性サロンが（ある・ない） | 男性が参加できるサロンが必要。 |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） | なにわ・たまりば（浪花）…  次のスタッフいない。 |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ …  亀ヶ丘亀楽会老人クラブ（亀ヶ丘）  松ヶ岡松寿会（松ヶ岡）  浪花きらく会（浪花）  老人クラブのない自治会 …  金屋谷、池ノ谷、白柏、漁師町  日吉、杉末  ※ 老人会の復活という声も少しずつ出ている。 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） | 杉末グラウンドゴルフクラブ、高齢者の生きがいに。 |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） |  |
| その他集まりが（ある・ない） | ・浪花には通りがかりの人が集まれる場所がある。  ・漁師町は浜が集う場となっている。  ・杉末はお寺の集まりで食事会。 |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 22名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | 公民館活動指導員を配置。 |
| 消防団（宮津分団） |  |
| 青年会 |  |
| その他 | 亀ヶ丘 … たすけあいネットワークとは別に自治会でサポートが必要な人を助けられるよう担架を購入して、その人の家に置いている。 | |
| 白柏、浪花 … 親から子、孫と近所付き合いが繋がっている。 | |
| 杉末 … 地蔵盆の活動も子供が少なくなり中止になっている。 | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票

（東部地区：鶴賀、城内、城東、城南、旭が丘、第２旭が丘、西波路、波路町、グンゼ）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） | 城東 … 高齢の方より若い人の方がごみの分別できていない。 |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 城東 … 近所同士で助け合ってできている。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） |  |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | 鶴賀 … スーパーがなくなって大変。  住民同士の助け合いなし。 |
| 移動販売が（ある・ない） | 城東 … 買い物であまり困ることはない。宅配や生協を活用できる。 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | 鶴賀 … 組長に老人の見守りをお願いしている。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） |  |
| バス停まで（近い・遠い） |  |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | 旭が丘 … だんだんと高齢化し難しくなってきている。  西波路 … 除雪で困っている。市の小型除雪機の利用が必要か。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が（いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） |  |
| 祭りが（ある・ない） |  |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン …  和の会（鶴賀）  城東ふれあいサロン（城東）  城南ふれあいサロン（城南）  旭が丘ひまわりサロン会（旭が丘）  ※ 城南ふれあいサロンは、月２回、小田さん夫婦が独自に実施。  ※ 夕凪ほっこりカフェ（オレンジカフェ）男性の参加多い。  ※ 男性の参加がない。  サロンのない自治会 …  城内、第２旭が丘、西波路  波路町、グンゼ |

生活の充足状況調査票

（東部地区：鶴賀、城内、城東、城南、旭が丘、第２旭が丘、西波路、波路町、グンゼ）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | サロン | 男性サロンが（ある・ない） | 城東 … 老人会の中で男性サロンがある。  年４回。12～13人  旭が丘 … 男性を中心に懇親会を実施。 |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） |  |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ …  城内亀楽会（城内）、城東菊寿会（城東）  城南ことぶき会（城南）  旭が丘さつき会（旭が丘）  波路町喜楽会（西波路、波路町）  老人クラブのない自治会 …  鶴賀、第２旭が丘、グンゼ |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） | グラウンドゴルフ、歌の会、輪投げ、体操 |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | 旭が丘、第２旭が丘 …  畑は、交流の（仲良くなる）場。 |
| その他集まりが（ある・ない） | 城東 … ご詠歌などを通して集る場所がある。新興住宅地は、お地蔵さんがないので集っていない。  城南 … 松原公民館で毎月飲み会。  波路 … 砂浜掃除（年１回）に老人会員の参加。  波路町、西波路 … 公園を利用しグラウンドゴルフ、草刈。 |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 26名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | 公民館活動指導員を配置。 |
| 消防団（宮津分団） |  |
| 少年後援会 |  |
| 壮年会 | 西波路 … 活動が弱まってきている。  40歳代が少ない。 |
| その他 | 城東 … 子どもが多い。小さな単位で活動を行っている。 | |
| 旭が丘 … 30歳代で家を建て、入って来た世帯が80戸。今では高齢者になりつつある。 | |
|  | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票（城南部地区：滝馬、百合が丘、福田、宮村上、宮村、辻町）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） |  |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 滝馬 … 近所の人がごみ出しをしている。  辻町 … ひとり暮らしでごみ出しの支援をしている人がいる。  ※ ヘルパーや暮らしのかけ橋を利用している。  ※ ごみが重くて困っている。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） |  |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | 買い物は何とか自立されている。 |
| 移動販売が（ある・ない） | 配食、とくし丸 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | 滝馬 … 訪問しても聞こえていない人もいる |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） | ・行きはバスで行けるが、帰りは時間が合わないためタクシー。  ・通院は何とか自立されている。  ・家族の送迎が可能な方も多く、特段困ってはいない。 |
| バス停まで（近い・遠い） |  |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | 滝馬 …  ・近所の人が雪かきをしている。  ・『雪かきしましょうか』と言っても断られることがある。  ・除雪隊（市より除雪機を貸与）により独居高齢者等困っている個人宅除雪を行っている。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） | 滝馬 … 子供見守り隊を自治会で設置。  子どもとのふれあい。 |
| 祭りが（ある・ない） | 宮村・辻町 … 祭りを復活させて40年だが、子どもの数が少ないため継承の困難さを感じる。 |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン …  百合が丘サロン（百合が丘）  福田サロン（福田） |

生活の充足状況調査票（城南部地区：滝馬、百合が丘、福田、宮村上、宮村、辻町）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン … 辻町ふれあいサロン（辻町）  ※ 辻町にもう１箇所サロンができればいい。遠い人が参加できるよう。  ※ 10年後を見据え、今のうちに介護予防できるようなサロンを立ち上げては。  ※ 元気な高齢者が自主トレできるような場所があると良い。  サロンのない自治会 … 滝馬、宮村上、宮村 |
| 男性サロンが（ある・ない） |  |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が  （いる・いない） | 辻町 … リーダー後継者あり。 |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ … 滝馬金引会（滝馬）  百合が丘百寿会（百合が丘）  辻町オパールクラブ（辻町）  ※ 福田では自治会と老人会が手を組んでやっていけるようになった。  ※ 百寿会と青少年後援会がコラボして七夕祭を実施。  老人クラブのない自治会 … 福田、宮村上  　　　　　　　　　　　　　宮村  ※ 宮村は数年前に老人会を解散。 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） | カラオケクラブ（同好会）、グラウンドゴルフ  クラフト教室（福田）  囲碁クラブ（福田、百合が丘）  ※ グラウンドゴルフができる場所の確保 |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | 宮村 … 宮村は農業をしている人が多い。畑に出ていると誰かが声をかけてくれる。 |
| その他集まりが（ある・ない） | 滝馬 … 集える場所がない。  婦人部も減ってきている。  陶芸教室 |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 56名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | 公民館活動指導員を配置。年間を通して活動が活発。 |
| 消防団（宮津分団） |  |
| その他 | 宮村・辻町 … 隣組の付き合いが希薄。もともと居た人と新しく入って来た人との間にわだかまりがある。 | |
| 滝馬 … 隣近所との付合いが少ない。話したこともない。新年会もない。 | |
| 福田 … 同じ時期に同年代が団地に引っ越してきたので全員が若いが、10年後は全員が後期高齢者。 | |
| 民生委員協力者が独居や高齢者世帯を訪問し、草取りや散髪、ごみ収集所の草取り等のボランティアを行っている。 | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票

（城東部地区：惣、皆原、山中、波路、東波路、獅子崎、つつじが丘、問屋町）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） |  |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） |  |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） |  |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | 惣 … 店が近くにあり住みやすい。 |
| 移動販売が（ある・ない） | 皆原 … とくし丸（火、金） |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | 東国名賀、皆原、山中 …  ひとり暮らしでも元気な方が多い。  地域での声掛けや繋がりはできてい  る。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） |  |
| バス停まで（近い・遠い） | 東国名賀、皆原、山中 …  昼間家族がいないときは足がない。  タクシー利用になる。  バス移送等考えては。 |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） | 惣 … 駅まで近く便利。  東国名賀・皆原・山中 …  駅まで遠く不便。 |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） |  |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） | 惣 … 子ども会（愛護会）がある。  子どもが増えた。 |
| 祭りが（ある・ない） |  |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | サロンのない自治会 …  惣、皆原、山中、波路、東波路  獅子崎、つつじが丘、問屋町  ※ つつじが丘・獅子崎・問屋町 …  人生を楽しめる場所がない。  サロン等集る場所がない。  交流がない。  ※リーダー的な人がいない。  ※ 波路・東波路 …  市街地の法人主催のサロンに  参加。  ※ サロン活動を行うに当たっては、元民生委員に声掛けしては。 |

生活の充足状況調査票

（城東部地区：惣、皆原、山中、波路、東波路、獅子崎、つつじが丘、問屋町）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | サロン | 男性サロンが（ある・ない） |  |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） |  |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ … 惣寿会（惣）  ※ 行事に参加する会員が年々少なくなってきている。  ※ 「老人」会の名称変更を検討して、会員確保を図っては。  老人クラブのない自治会 …  皆原、山中、波路、東波路、獅子崎  つつじが丘、問屋町 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） |  |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | 波路 … 農作業している人が多い。  交流の場がある |
| その他集まりが（ある・ない） | つつじが丘 …  60歳代から参加できるつつじ会があるが、参加者が少ない。  草取りは皆集るが、旅行は集りにくい。  惣 …  公民館は普段はしまっており、活用が少ない。活用するようにしたい。  地蔵盆に子供から高齢者まで一緒にご飯を食べる風習が残っている。 |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 35名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | 公民館活動指導員を配置。  ※ 公民館を活用した地域交流の場所があればよい。 |
| 消防団（宮津分団） |  |
| 隣組 | 惣 … 神社掃除 |
| 自治会 |  |
| その他 | つつじが丘、獅子崎、問屋町 … 参加しない人をどうして外に連れ出すか | |
| 惣 … 災害時にひとり暮らしの方で、１人で避難できない人が数人いる。 | |
| 外出支援や地域の困りごと（ごみ出しや通院時の送迎等）に対する有償ボランティアがあればよい。 | |
| 同じ地区でも自治会単位で地域特性が違い、他者との交流や会話が少ない。 | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票（上宮津地区：小田、喜多、今福、天神、鳥が尾、松縄手）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） |  |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 鳥が尾 …  ・ごみ出しの手伝いをしたり、庭先の片付けをしている人がいる。  ・ごみ出しが大変。ごみを家の前に出せばもって行ってもらえるような仕組みを作ってほしい。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） | 松縄手、天神、鳥が尾 …  ごみの集積場所を増やしてほしい。  集積場所までが遠い。 |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | 天神、鳥が尾 … バス停までが遠い。  買い物が不便。 |
| 移動販売が（ある・ない） | とくし丸、生協、木崎さん。  あまり使わない。 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | ・隣同士で気に掛け、安否確認を行っている。  ・毎月１回全戸が集る集金常会を行っている。安否確認の場になっている。  ・民生委員だけで地域の見守りは難しい。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） |  |
| バス停まで（近い・遠い） | 天神、鳥が尾 … バス停までが遠い。 |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | それぞれで行われている。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） |  |
| 祭りが（ある・ない） |  |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン …  ・サロン・ド・カミヤヅ（全域）  　・オープンカフェ（毎月20日、送迎がないため参加者少ない）  　・鳥が尾サロン、松縄手サロン  天神オレンジカフェ、天神夏祭り  ※ 囲炉裏茶や（オレンジカフェ） |
| 男性サロンが（ある・ない） |  |

生活の充足状況調査票（上宮津地区：小田、喜多、今福、天神、鳥が尾、松縄手）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | サロン | サロンへの送迎が（ある・ない） | サロン・ド・カミヤヅで送迎あり。 |
| サロンの後継者が（いる・いない） |  |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ …  千歳会（今福を除く全域）  今福福寿会（今福） |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） | グラウンドゴルフ15名程度 |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | 畑があるのは、高齢者にとって体が鍛えられるので良い。  小田 … 農作業が活発。 |
| その他集まりが（ある・ない） | ・お講、観音講、行者講を行っている。  ・お寺のご詠歌の集まり  ・毎月末、集金常会を行っている。  ・祭りが多く、人の集まりがある。  上宮津祭り、夏祭り、滝祭り、蛇綱  新年会  ・鳥が尾 …  ボランティアグループを結成。  ひとり暮らしの家の草刈等を実施。  今後はちょっとした困りごとの手伝い。 |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 21名（Ｈ30.4.1現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | 活動には送迎がないと人が集りにくい。  参加者が特定されている。 |
| 消防団（宮津分団） |  |
| その他 | 老人会は男性、サロンは女性。サロンには酒がない。 | |
| 天神、鳥が尾 … 団地特有のもので「困っていても相談してこない」「訪問してほしくなさそうな雰囲気」。 | |
| 天神、鳥が尾 … 年に数回しか集まる機会がなく、高齢者の居場所が少ない。 | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票

（栗田地区：新宮、脇、中村、小寺、上司、中津、小田宿野、島陰、田井、矢原、獅子、銀丘、鏡ヶ浦）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） | 地区で分別は徹底されている。 |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 本人や家族から依頼があれば、断らずにお手伝いできる。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） |  |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | 小寺、上司 … 店がにしがきのみ |
| 移動販売が（ある・ない） | とくし丸 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） |  |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） | 中津、小田宿野、銀丘 …  ・通院が不便  ・運転できなくなった方、足腰が弱った方の買い物や通院が不自由。  ・北部医療センターへの乗り継ぎが不便。 |
| バス停まで（近い・遠い） | 中津、小田宿野、銀丘 …  バス停まで行くのが大変 |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | 小寺 … 除雪できている。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） |  |
| 祭りが（ある・ない） |  |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン …  栗田っ子サロン（全域）  ※ いちごカフェ（オレンジカフェ）  高齢者の集まりの場。  サロンのない自治会 …  新宮、脇、中村、小寺、上司  中津、小田宿野、島陰、田井  矢原、獅子、銀丘、鏡ヶ浦 |
| 男性サロンが（ある・ない） |  |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） |  |

生活の充足状況調査票

（栗田地区：新宮、脇、中村、小寺、上司、中津、小田宿野、島陰、田井、矢原、獅子、銀丘、鏡ヶ浦）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ … 小寺睦美会（小寺）  みどりの会（銀丘）  ※ 銀丘はリーダーがいる。  老人クラブのない自治会 …  新宮、脇、中村、上司、中津、小田宿野  島陰、田井、矢原、獅子、鏡ヶ浦  ※ 若い老人が老人会に入ってこないため続かない。連合会が解散。 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） | グラウンドゴルフクラブ |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | 畑がたくさんあり、話が出来る場所がたくさんある。 |
| その他集まりが（ある・ない） | ・老人会や畑等で集る場所がある。  ・敬老会は、各地区独自に行っている。  ・おひまちの集まりがある。  ・夏のラジオ体操。  ・小田宿野 … 公民館でカラオケ、由良地区との交流あり。  ・民生委員ＯＢ、ＯＧが立ち上げたさくらの会がある。 |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 20名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | 30年位前に公民館が建て変わってから、常に開放されなくなり集まる機会が減った。 |
| 消防団  （栗田分団、新宮・島陰地区支援隊） |  |
| 栗田婦人会（宮津女性の会（栗田）） |  |
| その他 | 小寺、上司 … 組織を立ち上げなくても「お互いさま」で地域が成り立っている。 | |
|  | |
|  | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票（由良地区：由良脇、由良宮本、浜野路、港、下石浦、上石浦）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて  （いる・いない） | 由良脇、宮本 …  ごみ出しに困っている。  曜日を間違える人もいる。  近隣でフォローしている。 |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 認知症の方でごみの分別が難しい方がいる。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） | ごみ出しはしやすい。 |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | 由良脇、宮本 …  小西商店、和助さんがある。配達あり。  下石浦、上石浦 …  　　　　　　買い物が不便。車が必要。 |
| 移動販売が（ある・ない） | 由良脇、宮本 … とくし丸の利用が減ったように感じる。 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて（いる・いない） | 民生委員が訪問。  下石浦・上石浦 …  ひとり暮らしの方が長い間出かけ  る際は、見守り隊に連絡あり。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） | 診療所までいけない人の送迎は、近所の人が対応しているケースがある。 |
| バス停まで（近い・遠い） |  |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） | 下石浦、上石浦 … 駅まで遠い。 |
| 移送サービスが  （使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | 由良脇、宮本 … 除雪が大変。グループをつくり対応を検討。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が（いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） |  |
| 祭りが（ある・ない） | 各地区ごとに実施 |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン … ゆうなぎ会（由良脇）  宮本ふれあいグループ（由良宮本）  浜野路夕月サロン（浜野路）  みなと和の会（港）  オレンジ会（下石浦）  早蕨の会（上石浦）  浜の子ナーサリー（全域）  由良男性サロン（全域）  ※ 由良脇、宮本 … 参加者が減少傾向。25人→11人  ※ 足湯サロン（ゆら・リング・カフェ）  認知症でない方も参加。 |

生活の充足状況調査票（由良地区：由良脇、由良宮本、浜野路、港、下石浦、上石浦）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | サロン | 男性サロンが（ある・ない） | 由良男性サロン（全域）、料理教室を実施。  意外に男性はサロンに参加したい気持ちがある。きっかけしだいで男性の参加は増える可能性が高い。 |
| サロンへの送迎が（ある・ない） | サロンにいけない人のために、家に行って話をしてくれるようなサービスを考えては。 |
| サロンの後継者が  （いる・いない） |  |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ … 由良松寿会（全域）  ※ 男性料理教室実施。  ※ 由良の高齢者数から見ると、会員数20名程度は少ない。 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） | 由良脇、宮本 … 手芸クラブがある。  由良全体 …  ・環境のボランティアグループがある。  男性ばかりで草刈り。  ・ターゲットバードゴルフをやっている  グループがある。 |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | 元気な人は田や畑へ出かける。 |
| その他集まりが（ある・ない） | 由良脇、宮本 … 公民館を利用しているグループあり。  由良全体 … 各神社で祭りを行っている。 |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 16名（Ｈ30.4.1現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | ・公民館活動が活発。（ウォーキング、グラウンドゴルフ、囲碁、大正琴、卓球、男性料理教室など）  ・今後、子供と高齢者との交流事業が出来れば。  ・由良ヶ岳登山 … 参加者約100名、52回実施。  ・体操（ストレッチ）教室、参加者限られている。 |
| 消防団（由良分団） | 災害時要請があれば出動する。 |
| 浜野路…壮青年会（～60歳） | 若い人は地域を越えて皆仲良し。 |
| その他 | 浜野路、港 … 安寿の里には、自由に参加できる場所があり、少人数の方が行かれている。市外から移住の方がちょこちょこおられる。  港 … 子供が少ない。以前、子供たちが遊んでいた児童公園を高齢者の居場所に出来ないか。  上石浦 … 毎年、祭りの時に地区民全員で写真撮影をしている。高齢者も楽しみにしており、励みになっている。  　　　　　災害時、上石浦公民館が一時避難所になっているが、危険区域になっているので集らない。 | |
| 大学との交流があったがうまくいかなかった。継続が難しい。 | |
| 駅の階段の昇降が大変だが、学生が高齢者に声を掛けて荷物を運んであげているのを見かける。 | |
| 新聞を取っていない人の安否確認ができないので、端末等の貸し出しで安否確認できる体制を整えては。 | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票（吉津地区：須津、夕ヶ丘、浜垣、宝山、文珠）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） |  |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 近所の方が助け合って行っている。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） | ごみステーションの扉が重いため高齢者には開けられない。 |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） |  |
| 移動販売が（ある・ない） | 配食は、矢野食品、すず菜、松浪の弁当 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | 老人会 …  ひとり暮らし高齢者の友愛訪問。  夕ヶ丘 … 声掛けなどにより安否確認。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） | 通院はタクシーを利用されている方が多い。 |
| バス停まで（近い・遠い） | 夕ヶ丘 … 自宅からバス停までの距離が遠く、移動も大変。 |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） | 夕ヶ丘 |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | 隣近所で助け合っている。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） | 老人会活動として、学校下校時の子供の見守り。 |
| 祭りが（ある・ない） |  |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン …  せせらぎサロン（全域）  　だんらんの会（文珠）  ちえの輪（全域）  ほっとさろん（全域）  ※ 須津なぎさカフェ（オレンジカフェ） |
| 男性サロンが（ある・ない） |  |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） |  |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ …  須津長寿会（須津）  ※ 奉仕活動 … お宮掃除、駅の草刈  大師山の掃除 |

生活の充足状況調査票（吉津地区：須津、夕ヶ丘、浜垣、宝山、文珠）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 老人クラブのない自治会 …  夕ヶ丘、浜垣、宝山、文珠   * 夕ヶ丘は数年前まで夕鶴会という老人会があったが解散。今後、再開したい意向あり。 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） | 菊つくり、囲碁、グランドゴルフ、輪投げ、カラオケ |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） |  |
| その他集まりが（ある・ない） |  |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 47名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 |  |
| 消防団（吉津分団） |  |
| 吉津婦人会  （宮津女性の会（吉津）） | 毎月第２日曜日に岩滝口駅でほっとさろんを実施。  出前サロンを実施。 |
| その他 | 須津東 … 全世帯を対象に住民カードを作成。連絡先等、緊急時の対応に使用。 | |
|  | |
|  | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票（府中地区：江尻、天橋、難波野、大垣、中野、小松、溝尻、国分）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） | ごみの分別が高齢者には困難。 |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 江尻、天橋 …  ごみ捨てはきちんとできている。  介護保険を受けている人は、ヘルパーでごみ捨てを対応。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） | 小松、中野 …  ごみステーションが１ヶ所しかない。 |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | にしがきが遠くなったため買い物に行きにくくなった。 |
| 移動販売が（ある・ない） | 橋本食品、田政、ヤノ食品、とくし丸 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | ・溝尻では、地域づくり委員会があり、独居老人の状況を皆が把握している。  ・国分では、独居高齢者がどこにいるか全く掴んでない。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） |  |
| バス停まで（近い・遠い） |  |
| バスの便が（多い・少ない） |  |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） |  |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） | 小学校の登下校の見守り。元気な高齢者に立ってもらっている。  難波野のパトロール隊は高齢者が多い。 |
| 祭りが（ある・ない） |  |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン …  ちびっ子サロン（全域）  お楽しみサロン（天橋）  府中元気サロン（全域）  ※ 男性の参加が少ない。  ※ ホッとサロン … 椅子に座って体操の指導。 |
| 男性サロンが（ある・ない） |  |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） |  |

生活の充足状況調査票（府中地区：江尻、天橋、難波野、大垣、中野、小松、溝尻、国分）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ …  橋立喜楽会（江尻、難波野）  天橋寿会（天橋）  　　　　　中部喜楽会（大垣、中野）  老人クラブのない自治会 …  小松、溝尻、国分 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） |  |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） |  |
| その他集まりが（ある・ない） | 江尻、天橋 … 海岸でラジオ体操  中野 … 中野公会堂で昭和会を開催。  毎月おしゃべり。  溝尻、国分 … 有志が集って案山子づくりをしている。  溝尻 … 運動をやろう会、比較的若い人の集り。  国分 … 独自の取組や組織がない。  和（なごみ）というボランティア  を立ち上げ、ごみ拾い等を実施。 |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 17名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | 公民館活動 … 囲碁、将棋、おどり  コーラス、ちびっ子サロン |
| 消防団（府中分団） |  |
| 府中婦人会（宮津女性の会（府中）） |  |
| その他 | 難波野はサロンも老人会もない。 | |
|  | |
|  | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票（日置地区：浜、日置上）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | | 備考 | |
| 生活サービス | ごみ | | ごみの分別ができて（いる・いない） | | ・分別しなくてもゴミ袋を持って帰ってもらえるシステムがあれば良い。「高齢者袋」  ・ごみの分別の種類が多すぎて困難。 | |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | | ・80歳以上の方のステーション当番を免除。 | |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） | | ・ごみステーションが少なすぎる。  ・ふたが重くて開けられない。 | |
| 買い物 | | 店が近くに（ある・ない） | | 近くに買い物するところがない。 | |
| 移動販売が（ある・ない） | | とくし丸、浜田商店、小林商店 | |
| 見守り | | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | | 浜、上 …  毎月、常会（隣組集金）をして顔を合  わせている。各家持ち回り。  寄り合いは地域にとって大きな強み。  上 … とくし丸が安否確認の場にもなっている | |
| 交通機関 | | 通院できて（いる・いない） | |  | |
| バス停まで（近い・遠い） | |  | |
| バスの便が（多い・少ない） | |  | |
| 駅まで（近い・遠い） | |  | |
| 移送サービスが（使える・使えない） | |  | |
| その他 | | 雪かきができて（いる・いない） | | 近所の方もしている。 | |
| 食事づくりができて（いる・いない） | |  | |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） | | 独居の方は日々寂しさ感じられている。 | |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） | |  | |
| 祭りが（ある・ない） | | 地域が一つになれる大きな機会。 | |
| 居場所 | サロン | | サロンが（ある・ない） | | 既存のサロン … 波の音（日置浜）  やまびこ（日置上）  子育てサロンのびのび（全域）  ※ 浜、上ともリーダシップをとってくれる人がいる  ※ イベント企画は負担が大きいので、気軽に集っている。  ※ してあげるのではなく、「一緒にやる」と考えている。  ※ やまびこ … 老人会がなくなりサロンができた。 | |
| サロンが（ある・ない） | | ※ サロン活動は強制されても困難、自主的な活動。 | |

生活の充足状況調査票（日置地区：浜、日置上）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | サロン | 男性サロンが（ある・ない） |  |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） |  |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 老人クラブのない自治会 … 浜、日置上  ※ 老人会がなくなりサロンができた。 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） |  |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | 男同士で集っているところが３ヶ所ある。 |
| その他集まりが（ある・ない） |  |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | ８名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 |  |
| 消防団（日置分団） |  |
| 日置婦人会（宮津女性の会（日置）） |  |
| その他 |  | |
|  | |
|  | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票（世屋地区：畑、下世屋、松尾、木子、上世屋）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） | ごみの分別、ごみ捨てが困難。 |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） |  |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） | ・ごみステーションが１ヶ所増えたので助かっている。  ・木子では、ごみ収集が２週間に１回。 |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） |  |
| 移動販売が（ある・ない） | とくし丸、ヤノ食品（下世屋まで）、生協。買い物で困ることない。 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | ・誰がどこにいるか全部分かる。  ・家の前を通ったら大体のことが分かる。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） | 病院まで出ることが大変。バスがあるがタイミングがうまく合う時ばかりではない。 |
| バス停まで（近い・遠い） |  |
| バスの便が（多い・少ない） | 定期バスの便が少なく、不便である。 |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | 畑 … 市道の除雪が大変。雪の時は見守りができない。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） |  |
| 祭りが（ある・ない） | 下世屋 … 春秋、例祭がある。  基本全区民参加。  木子 … お寺や祭りがないのでそれに  関連した集りはない。 |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン …  世屋ふれあいサロン（全域）  ※ 公民館行事と一緒にサロンを実施。  主催は加工グループ。 |
| 男性サロンが（ある・ない） |  |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） | 加工グループの後継者がほしい。 |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 老人クラブのない自治会 …  畑、下世屋、松尾、木子、上世屋 |

生活の充足状況調査票（世屋地区：畑、下世屋、松尾、木子、上世屋

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） |  |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | 毎日の農作業で、出会い、お話しされる方が多い。特に女性の交流が多い。 |
| その他集まりが（ある・ない） |  |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | １名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | ・世屋全体の地区運動会が毎年ある。  ・日置との合同で運動会をすることもある。 |
| 消防団（世屋地区支援隊） |  |
| 婦人会  （宮津地域女性の会（日置・世屋）） |  |
| 加工グループ | 加工工場（にんにく味噌、フキの佃煮、お餅）女性４人。 |
| その他 | 畑 … 災害が起きそうなときはバージニアセンターへ避難している。 | |
| 木子 … 車の運転が出来なくなったら住めない。そのときは集落から出て行く。  　　　　集落の集りは年に１回程度なので気楽である。  　　　　子育て世帯があり、近所宅を訪ねることが多い。 | |
| 京大、立命館大の学生が出入りすると、集落の雰囲気が変わる。留学生も来る。 | |
| 世屋の女性加工グループが主になって地域の活動をしている。 | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票

（養老地区：田原、大島、岩ヶ鼻、外垣、長江、里波見、中波見、梅ヶ谷、奥波見）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） | 里波見～奥波見 … ごみの分別が難しい。 |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 家の前にごみを置いておけば近所の人が出してくれる。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） |  |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | 大島～長江 … にしがき  里波見～奥波見 … 店がない。  ※ 運転できなくなった方や足腰が不自由な方の買物が不便。 |
| 移動販売が（ある・ない） | 生協、とくし丸、小林  とくし丸は中波見までしか来ない。 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | 隣組内で声掛けや回覧板をまわす手伝いをしている。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） | ・足がない。特に奥波見、梅ヶ谷。  ・運転できなくなった方や、足腰が不自由な方の通院が不便。  ・北部医療センターを紹介されたとき、介護タクシーを利用するが、料金が高い。また、家族が同乗できないので不便。 |
| バス停まで（近い・遠い） | 大島 … バス停まで遠い。 |
| バスの便が（多い・少ない） | 中波見～奥波見 … １日上り２便 |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが（使える・使えない） |  |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | 近所の人が手伝ってくれる。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） |  |
| 子供の見守りをして（いる・いない） |  |
| 祭りが（ある・ない） |  |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン …  サロンせんごく（全域）  里波見カントリーフレンズ（里波見）  青嵐荘「だんないでえカフェ」  （オレンジカフェ）  ※ 田原公民館で出張サロンを実施、参加者多く盛況だった。 |

生活の充足状況調査票

（養老地区：田原、大島、岩ヶ鼻、外垣、長江、里波見、中波見、梅ヶ谷、奥波見）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | ※ 新しい参加者が増えない現状。外出機会を増やし、参加者増に結び付けたい。  ※ サロンに行きたいが足がないため行けない人がいる。個人の車を公用車扱いにできないかとの意見あり。 |
| 男性サロンが（ある・ない） | 男性はサロン参加への敷居が高いので、元気で運転でき、やりたいことが自由にできるほうが良い。 |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） |  |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 既存の老人クラブ …  大島さざ波の会（大島）  　　　　対象者の３割が、月１回は集まっている。元気老人が多い。  　　長江老人会（長江）  ※ 市連合会に未加入の老人会 …  里波見、中波見、梅ヶ谷、奥波見  ※ 老人会活動では、担い手、リーダーが不在、組織が弱体化。  老人クラブのない自治会 …  田原、岩ヶ鼻、外垣 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） | ゲートボール、グラウンドゴルフ |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | 畑サロンは何時ということなくしている。 |
| その他集まりが（ある・ない） | うどん祭り |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | 19名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 | 公民館長不在。 |
| 消防団  （養老分団、田原・外垣地区支援隊） |  |
| いさり火会 | 配食を実施。春、秋の２回。 |
| つくしの会 | ひとり暮らしの手伝いでスタート。  65歳以上に呼びかけ。 |
| その他 | 田原 … Ｈ13加工センターが完成。そばや餅を作っている。  交流や就労、介護予防に良い機会となっている。 | |
|  | |
|  | |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

生活の充足状況調査票（日ヶ谷地区：立、大西、厚垣、落山、薮田）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 生活サービス | ごみ | ごみの分別ができて（いる・いない） |  |
| ごみ出しを手伝ってくれる人が  （いる・いない） | 90歳を越えた方宅はごみ出しができず、その家だけ収集車が取りに来ている。  分別はできている。 |
| ごみステーションが  （近い・遠い・少ない） |  |
| 買い物 | 店が近くに（ある・ない） | 独居の方もバイクに乗り、買い物は何とかできている。 |
| 移動販売が（ある・ない） | とくし丸は週１～２回。 |
| 見守り | ひとり暮らし高齢者の見守りができて  （いる・いない） | ・家の中から灯りや動きが見え、安否確認ができている。  ・散歩の時や回覧板を回すとき安否確認をしている。  ・隣近所で面倒を見るといっても、どこまで入っていいのか分からない。こういう人をどうするかが問題。  ・老老介護で、元気な高齢者が支援の必要な高齢者の面倒を見る。 |
| 交通機関 | 通院できて（いる・いない） |  |
| バス停まで（近い・遠い） |  |
| バスの便が（多い・少ない） | ・歯科の受診時間が合わず不便。 |
| 駅まで（近い・遠い） |  |
| 移送サービスが（使える・使えない） | ・買い物バス、ミップル行き、年２回。（社協）  ・地元でＮＰＯを立ち上げた。社協の車を借り、第１、第３火曜日に運行。 |
| その他 | 雪かきができて（いる・いない） | ・自治会が独居の方を手伝っている。  ・落山では90歳超の方が除雪を行っている。 |
| 食事づくりができて（いる・いない） |  |
| ひとり暮らしで不安に思っている人が  （いる・いない） |  |
| 子どもの見守りをして（いる・いない） |  |
| 祭りが（ある・ない） |  |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | 既存のサロン … サロン楽（立）  ※ 出張サロンがほしい  サロンのない自治会 … 大西、厚垣  落山、薮田 |

生活の充足状況調査票（日ヶ谷地区：立、大西、厚垣、落山、薮田）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | | 内容 | 備考 |
| 居場所 | サロン | サロンが（ある・ない） | ※ 大西では、以前サロンを行っていたが、解散した。 |
| 男性サロンが（ある・ない） | サロンは男性が入りにくい。 |
| サロンへの送迎が（ある・ない） |  |
| サロンの後継者が（いる・いない） |  |
| 老人  クラブ | 老人クラブが（ある・ない） | 老人クラブのない自治会 …  　　　　　立、大西、厚垣、落山、薮田 |
| その他 | 趣味のクラブが（ある・ない） |  |
| 畑仕事する場所が（ある・ない） | ほとんどの方が畑や田んぼをしている。 |
| その他集まりが（ある・ない） | ・日ヶ谷地区全体で文化祭、運動会（体育館を使用）をしている。ずっと続いているのはすごいこと。  ・７月は、はす池のお祭り。Ｈ30は中止。 |
| 老人大学に参加している人が  （いる・いない） | ２名（Ｈ30.４.１現在） |
| その他 | 活動団体 | 公民館 |  |
| 消防団（日ヶ谷地区支援隊） |  |
| 自治会 | ・自治会活動としては、盆と祭り、鹿狩り、地区内清掃。  ・落山神楽は府の無形文化財だが、今はできていない。  ・厚垣でも祭りができなくなった。 |
| その他 |  |  |
|  |  |
|  |  |

※ 内容欄の（いる・いない）等の選択部分が未選択のものは、調査中の項目

宮津市地域福祉計画推進協議会委員名簿

区分別氏名（五十音順、敬称略）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区　 分 | 委員氏名 | | 団体・役職名等 |
| 学識経験者 |  | 川上　信哉 | 司法書士（京都司法書士会所属） |
| 関係機関及び  団体の役職員 |  | 木﨑　重弘 | 宮津市身体障害者団体連合会会長 |
|  | 橋本　俊次 | 宮津市老人クラブ連合会会長 |
|  | 升田　榮二 | 宮津市自治連合協議会会長 |
| ◎ | 村岡　千鶴 | 宮津市民生児童委員協議会会長 |
| 保健福祉医療  等の関係者 |  | 石田　弘司 | 宮津市ボランティア連絡協議会会長 |
|  | 下垣しげ美 | (公社)京都府看護協会宮津訪問看護ステーション管理者 |
|  | 高松　和子 | 宮津市子育て支援センターにっこりあセンター長 |
|  | 田向佳代子 | 障害者生活支援センターかもめ所長 |
|  | 福井　子 | 宮津市食生活改善推進員協議会会長 |
| ○ | 細見　節夫 | (福)宮津市社会福祉協議会会長 |
|  | 前田　重人 | (福)北星会 法人本部事務局長 |
|  | 山根　行雄 | (一社)与謝医師会会長 |

　　　　　　　◎ 会長　　○副会長

宮津市地域福祉計画推進協議会設置要綱

平成28年３月31日告示第18号

平成30年３月 ６ 日告示第11号

（設置）

第１条　社会福祉法（昭和26年法律第45号）第107条に規定する地域福祉計画（以下「地域福祉計画」という。）を策定し円滑かつ確実な実施の促進等を図るため、宮津市地域福祉計画推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　協議会は、次に掲げる事項を所掌する。

(1) 宮津市地域福祉計画の推進に関すること。

(2) 地域福祉計画の策定に関する必要な事項について調査及び審議すること。

(3) その他市長が必要と認める事項

（組織）

第３条　協議会は、委員15人以内で組織する。

２　協議会の委員（以下「委員」という。）は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 関係機関及び団体の役職員

(3) 保健福祉医療等の関係者

(4) その他市長が必要と認める者

３　委員の任期は、委嘱又は任命の日から当該委嘱又は任命の日の属する年度の翌年度の３月31日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第４条　協議会に会長及び副会長各１名を置く。

２　会長及び副会長は、委員の互選により定める。

３　会長は、会務を総理する。

４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第５条　協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

２　会長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見又は説明を求めることができる。

（庶務）

第６条　協議会の庶務は、地域福祉担当課において処理する。

（その他）

第７条　この要綱に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附　則

（施行期日）

１　この要綱は、平成28年４月１日から施行する。

（宮津市地域福祉計画策定委員会設置要綱の廃止）

２　宮津市地域福祉計画策定委員会設置要綱（平成27年告示第34号）は、廃止する。

附　則

　この要綱は、告示の日から施行する。

宮津市地域福祉計画策定経過

|  |  |
| --- | --- |
| 年月日 | 内　　　　　　　　容 |
| 平成30年３月19日 | 第１回宮津市地域福祉計画推進協議会  ・会長及び副会長の選出  ・新たな地域福祉計画の策定について  ・宮津市地域福祉推進計画の進捗状況について  　（平成28年度、29年度） |
| 平成30年10月11日 | 第２回宮津市地域福祉計画推進協議会  ・地域福祉計画の骨子について  ・スケジュールについて |
| 平成30年11月22日 | 第３回宮津市地域福祉計画推進協議会  ・地域福祉推進計画中間案について |
| 平成30年12月26日  ～平成31年１月15日 | 中間案パブリックコメントの実施 |
| 平成31年１月17日 | 第４回宮津市地域福祉計画推進協議会  ・パブリックコメントの実施結果について  ・地域福祉計画（最終案）について |

【用語説明】

● ＮＰＯ

　　Non Profit Organizationの略で、民間非営利団体と訳される。日本においては、市民が自主的に組織運営する、営利を目的としない市民活動団体という意味で用いられる場合が多い。1998（平成10）年12月に施行された「特定非営利活動促進法（通称:ＮＰＯ法）により法人格を取得した団体を特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）という。

【あ行】

● アウトリーチ

英語で手を伸ばすことを意味する。社会的なつながりから孤立し、支援がいきとどいていない住民に対し、専門職が地域や個々の自宅等へ出向いて、支援や情報提供を実施する意味で用いる。

● 天橋立ツーデーウオーク

　　全国から参加者を迎え、秋に開催しているウォーキングイベント。また、本市で市民の健康寿命の延伸を目指して展開している「健康づくり運動」のシンボルイベントとして、健康ウオーキング講座の開催など、「歩く」ことを通じての健康づくり意識の醸成を図るもの。

● 一時預かり事業

　　家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、主として昼間において、認定こども園、幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点その他の場所において、一時的に預かり、必要な保護を行う事業。

● 一般介護予防事業

高齢者を年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進する事業。介護予防・日常生活支援総合事業に位置づけられる。

● インクルーシブ教育システムの構築

　　障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に向け、本人・保護者と市町村教育委員会、学校等が、教育的ニーズと必要な支援について合意形成を行うことを原則として、市町村教育委員会が就学先を決定する仕組みを構築している。

● 延長保育事業

　　認定こども園・保育所等において、仕事の都合などで通常の開所時間での迎えができない家庭のために、延長して保育を行う事業。

【か行】

● 介護給付費

要支援・要介護の認定を受けた方が利用する介護保険サービスの費用の合計。半分を保険料、残り半分を公費で賄っている。

● 介護サービスの第三者評価

介護サービス事業所の自主的なサービスの質の向上への取組を支援するため、一定の評価基準に基づいて、サービスの質などの達成度合いを評価し、改善のための助言等を行うもの。評価結果を公表することにより、利用者が介護サービス事業所を安心して選択することができるようにするもの。

● 介護支援専門員

ケアマネジャーのこと。介護保険制度で、要介護・要支援認定者等からの相談に応じるとともに、心身の状況等に応じ適切なサービスが利用できるよう、ケアプラン（介護サービス計画）を作成し、介護サービス事業者、施設などとの連絡・調整を行う者。

● 介護相談員

特別養護老人ホームやグループホームなどの施設を訪問し、利用者が快適な日常生活を送ることができるよう、施設に対する要望や疑問、不安解消のための相談に応じ、介護サービスの質的向上を図る役割を担う者。

● 介護福祉士

社会福祉士及び介護福祉士法により定められた介護・福祉分野の国家資格。

専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより、日常生活を営むのに支障のある方に対し、入浴、排せつ、食事その他の介護を行い、並びにその方及びその介護者に対して介護に関する指導を行う専門職のこと。

法律では、「介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上又は、精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うこと」と定義されている。

● 基幹相談支援センター

　　地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として、相談支援に関する業務を総合的に行うことを目的とする施設。市町村又は当該業務の実施の委託を受けた者が設置することができる。

● 虐待

　　人権を侵害し、心や身体を傷つけるような行為。殴る、蹴るなどの暴力的な行為だけでなく、本人の意に反する身体的拘束や性的虐待、暴言や脅迫などの心理的虐待、世話を放棄するネグレクト、年金などを勝手に使ってしまう経済的虐待などがあり、児童や高齢者、障害者等に対する虐待が問題となっている。

● 教育・保育施設

　　認定こども園法第２条第６項に規定する認定こども園、学校教育法第１条に規定する幼稚園及び児童福祉法第39条第１項に規定する保育所をいう。（法第７条）

● 協議体

市町村が中心となり、各地域におけるコーディネーターと生活支援等サービスの提供主体等が参画し、定期的な情報共有及び連携強化の場として、中核となるネットワーク。第１層の市町村区域は主に資源開発（不足するサービスや担い手の創出・養成など）が中心。第２層の日常生活圏域（中学校区域等）は第１層の機能の下で、具体的な活動を展開。

● 協働

　　住民、事業者、社協、行政がそれぞれの持つ特性を生かし、補い合い、協力し合い、連携して地域活動や公共的課題の解決にあたること。

● 京都府北部福祉人材養成システム

京都府と宮津市、舞鶴市、福知山市の連携により、介護福祉人材養成校、総合実習センター、現任者研修実施機関からなる福祉人材養成システムを構築し、府北部の各市町、関係機関・団体が一丸となって協力支援体制を組み、介護・福祉人材の確保・定着を推進する事業。

● 京都府福祉のまちづくり条例

　　高齢者や障害のある人をはじめとするすべての人々が安心して快適に生活できるまちづくりを実現するため、平成７年に制定。互いを理解し、共に支え合う「こころのバリアフリー」の推進（ソフト的施策）と多くの方が利用する施設等のバリアフリー化の推進（ハード的施策）を２つの柱としている。

● 緊急発信設備

在宅高齢者の緊急時の通報体制。

● ケアプラン

介護保険において要支援、要介護に認定された人が介護サービスを利用する場合、本人の心身の状況や家族を含めた生活環境、本人や家族の要望などに配慮し、利用する介護サービスの種類や内容を定めた介護サービス計画書のこと。居宅介護サービス計画、施設介護サービス計画もケアプランのひとつ。

● ケアマネ

　　介護支援専門員（ケアマネージャー）の略称。介護保険制度においてケアマネジメントを実施する有資格者。要支援・要介護認定を受けた人からの相談を受け、介護サービスの給付計画（ケアプラン）を作成し、他の介護サービス事業者との連絡、調整等の取りまとめを行う。

● ケアマネジメント

支援を必要とするサービス利用者が、迅速かつ効果的に必要とするすべての保健・医療・介護・福祉サービスを受けられるように調整することを目的とした援助展開の方法。

● 健康寿命

　　健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

● 健康のまちづくり友好都市同盟

全国各地の健康増進活動、まちづくり活動を共有することを目的に、平成29年３月に全国15市町村の加盟により設立。

● 健康広場

　　住民（健康づくり運動推進地域リーダー）が運営を担う身近な健康づくりの場・組織。

地区単位で組織化されており、ウォーキングを中心に、体操や体力測定などの健康づくり活動を定期的（月１回程度）に実施している。

● 言語聴覚士

音声機能、言語機能又は聴覚に障害のある方についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行う専門職。

● 権利擁護

　　自己の権利を表明することが困難な寝たきりの高齢者や、認知症の高齢者、障がい者の権利擁護やニーズ表明を支援し代弁すること。

● コーディネート

　　対象者にとって必要なサービスを合理的・効果的に提供するため、様々な機関、施設等の専門職間の連絡・調整を行います。

● 口腔（こうくう）ケア

狭い意味では、口腔の清掃をいうが、これに加えて、歯石の除去、義歯の手入れ、さらに、摂食・咀嚼・嚥下訓練まで含めて考えられる場合もある。誤嚥性肺炎の予防や介護予防の視点からも大切なケア。

● 高次脳機能障害

　　交通事故等を原因とした脳の損傷によって起こされる、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの様々な認知障害の総称。外見等からでは分かりにくく、自覚症状も薄いため隠れた障害と言われている。

● 合理的配慮

　　障害のある人から社会の中にあるバリア（障壁）を取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに負担が重すぎない範囲で対応すること。

● 高齢化率

65歳以上の人口が総人口に占める割合。

● 高齢者等虐待防止ネットワーク

高齢者虐待の防止や早期発見、適切な支援を行うための関係機関や民間団体の協力体制。高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律第16条の規定により、市町村が整備しなければならない。

● こころのバリアフリー

　　誰もが支援を必要とする人々の自立した日常生活や社会生活を確保することの重要性についての理解を深め、自然に支え合うことができるようにすること。

● 子育て援助活動支援事業、ファミリー・サポート・センター事業

　　乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の保護者を会員として、児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡・調整を行う事業

● 子育て支援員（仮称）

　　育児経験豊かな主婦等で必要な研修を修了した者を「子育て支援員（仮称）」として認定し、小規模保育や放課後児童クラブ等における人材として活用する制度。

● 子育て短期支援事業

　　保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設に入所させ、必要な保護を行う事業。

● 子ども・子育て関連３法

　　①「子ども・子育て支援法」（以下、法という。）

②「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供に関する法律の一部を改正

する法律」（認定こども園法の一部改正）

③「子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供

に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」

（関係法律の整備法：児童福祉法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律ほか

の一部改正）

【さ行】

● 災害時要配慮者

　　高齢者、障害者や乳幼児など、災害発生時に避難や避難所で生活するときに、特に配慮を要する人。

　　市町村により名称や範囲が異なる。国は「避難行動要支援者」ともいう。

● 作業療法士

身体又は精神に障害のある方、又はそれが予測される方に対して、より主体的な生活を目指し、諸機能の回復、維持及び開発を促す作業活動を用いて治療・指導・援助を行う専門職。

● 施設型給付

　　認定こども園・幼稚園・保育所を通じた共通の給付。（子ども・子育て支援法第11条）

● 市町村子ども・子育て支援事業計画

５年間の計画期間における幼児期の学校教育・保育・地域の子育て支援についての需給計画をいい、新制度の実施主体として、特別区を含めた全市町村が作成することになる。（子ども・子育て支援法第61条）

● 市町村が設置する「子ども・子育て会議」

　　子ども・子育て支援法第77条第１項で規定する市町村が条例で設置する「審議会その他合議制の機関」を言う。

● 実費徴収に係る補足給付を行う事業

　　保護者の世帯所得の状況等を勘案して、特定教育・保育施設等に対して保護者が支払うべき日用品、文房具その他の教育・保育に必要な物品の購入に要する費用又は行事への参加に要する費用等を助成する事業。

● 社会資源

地域の課題解決に活用される、人的、物的、施設、設備等の資源のこと。

● 社会福祉協議会専門員

市区町村社会福祉協議会に設置されている職員で、民間社会福祉の推進調査、企画、連絡・調整、広報、その他の実践活動を職務内容とする。

● 障害者雇用支援月間

　　毎年９月を障害者雇用支援月間として定め、事業主のみならず、広く国民一般に対して障害者雇用の機運を醸成するとともに、雇用促進を積極的に行うため、様々な啓発活動が展開されている。

● 障害者雇用率

　　民間企業、国、地方公共団体は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、法定で定めた雇用率に相当する数以上の身体障害者、知的障害者又は精神障害者を雇用しなければいけないこととされている。

◇ 常用労働者数45.5人以上規模の民間企業　2.2％

◇ 国・地方公共団体　2.5％

◇ 都道府県等の教育委員会　2.4％

※ 平成33年４月までには更に0.1%引き上げになる予定。

● 障害者差別解消法（「障害を理由とする差別の解消に関する法律」）

　　障害者基本法の基本理念に沿って、障害を理由とする差別を解消するための措置について定めた法律。障害のある人に対する不当な差別的取扱いを禁止し、行政機関に対して合理的配慮の提供を義務づけている。平成25年６月に制定、平成28年４月施行。

● 障害者週間

　　障害者基本法において、12月３日～９日の一週間を、障害のある人自らの自立と社会参加に対する意欲の向上と、住民の障害者問題への理解を深めるための活動を積極的に行う期間と位置づけている。

● 障害者生活支援センター

　　市町村からの委託を受け、地域で生活する障害のある人やその家族からの相談に応じ、制度の情報提供やケアプランの作成を行う相談支援事業所。

● 障害者相談支援専門員

　　障害のある人が自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう、障害福祉サービスなどの利用計画の作成や地域生活への移行定着に向けた支援、住宅入居等支援事業や成年後見制度利用支援事業に関する支援など、障害のある人の全般的な相談支援を行う。

● 障害者トライアル雇用事業

　　就職を希望する障害のある人を対象に実施される制度で、企業において、公共職業安定所の紹介により短期間（原則として３か月間）試行的に障害のある人を雇用し、その間、企業と労働者相互の理解を深め、その後の常用雇用への移行や雇用のきっかけづくりを行う。

● 障害者の雇用の促進等に関する法律

　　障害のある人がそれぞれの能力に適した職業に就き、職業生活において自立することを促進するために総合的な措置を講じ、雇用の安定を図ることを目的とした法律。

● 障害者優先調達推進法

（｢国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律｣）

　　障害のある人の経済面の自立を進めるため、国及び地方公共団体等の公機関が、障害者就労施設等からの物品等の調達を推進するために必要な措置を講じることを定めた法律。

● 小規模多機能型居宅介護

　　利用者の居宅で、または利用者がサービス拠点に通ったり、短期間宿泊したりして、提供される入浴、排泄、食事などの介護、そのほかの日常生活を送る上で必要となるサービスなどや機能訓練をいう。

● 消費生活センター

　　商品やサービスなど消費生活全般に関する苦情や問合せなど、消費者からの相談を専門の相談員が受付け、公正な立場で処理にあたる。

● 職業適応援助者（ジョブコーチ）

　　障害のある人が職場に適応できるように、新たに就職する際の支援とともに、雇用後の職場適応支援を行う援助者。障害のある人に対する支援に加え、事業主や職場の従業員に対しても職場適応に必要な助言を行う。

● 食生活改善推進員

　　地域において、バランスのとれた食生活の定着や食育推進等、健康づくりのための食生活改善を目的として、行政に協力して普及、啓発活動を進める者及び団体。

● シルバー人材センター

　　原則として市（区）町村単位に置かれており、60歳以上の高年齢者（会員登録制）に、地域社会の日常生活に密着した「臨時的かつ短期的又はその他の軽易な就業」を提供。

● 自立支援協議会

　　相談支援事業をはじめとする地域の障害福祉に関するシステムづくりについて協議を行う機関。機能としては、①中立・公平性を確保する観点から相談支援事業の運営評価、②具体的な困難事例への対応のあり方についての指導・助言、③地域の関係機関によるネットワークの構築があげられます

● スキルアップ

　　腕前を上げること。技術力を高めること。

● 生活支援コーディネーター

　　生活支援サービスの充実及び高齢者の社会参加に向けて、ボランティア等の生活支援・介護予防の担い手の養成・発掘など地域資源の開発や地域のニーズと地域支援のマッチングなどを行うコーディネーター（地域支え合い推進員）。

● 成年後見制度

　　判断能力が十分でない認知症高齢者、知的障害者、精神障害者などが契約の締結や費用支払などの財産管理、施設や介護サービスの選択などの療養介護についての契約などの法律行為を行うことが困難な場合に、後見人などを選任することにより、これらの人を支援する制度。

● 前期高齢者、後期高齢者

65 歳以上 75 歳未満を前期高齢者、75 歳以上を後期高齢者という。

● 総合実習センター

　　京都府北部福祉人材養成システム（→用語説明あり）のなかで、社会福祉法人が整備をした現場一体型人材養成拠点施設。

【た行】

● 卓球バレー

　　卓球台で特殊なピンポン球を使って行う、障害の区別なく誰もが楽しめるスポーツ。京都市右京区の鳴滝養護学校で考案された競技で、全京都大会をはじめ、府内の各地域で大会が開催されており、現在は全国的な広がりを見せています。宮津市でも毎年卓球バレー大会を開催している。

● 地域型保育事業

　　小規模保育、家庭的保育、居宅訪問型保育及び事業所内保育を行う事業。（子ども・子育て支援法第７条）

● 地域共生社会

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会。

● 地域ケア会議

高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの推進に向けた手法。

具体的には、地域包括支援センター等が主催し、個別事例の検討を通じて、多職種協働によるケアマネジメント支援を行うとともに、地域支援ネットワークの構築につなげるなど、地域課題の発見・把握、地域づくり、資源開発の検討などを行う。

● 地域子育て支援拠点事業

　　乳幼児及び保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業。

● 地域子ども子育て支援事業

　　地域子育て支援拠点事業、一時預かり、乳児家庭全戸訪問事業、延長保育事業、病児・病後児保育事業、放課後児童クラブ等の事業。（子ども・子育て支援法第59条）

● 地域包括ケアシステム

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される、地域の包括的な支援・サービス提供体制。

● 地域包括支援センター

高齢者に関する総合相談・支援や権利擁護、介護予防のマネジメント、困難事例等への指導・助言などを実施し、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援するセンター。府内各市町村で配置。

センターには、介護支援専門員、社会福祉士、保健師の専門職員が配置されている。

● 地域密着型サービス

　　居宅や施設（介護保険施設を除く）で生活を送る、「要介護」と認定された人が利用出来るサービスです。「地域密着型サービス」を利用できるのは、原則としてサービスを提供する事業者のある市町村に住む人に限られる。

● 地域見守り隊

造語。見守りが必要な人に日常的に見守りや声かけを行うなど、潜在する福祉課題を早期に発見し、専門機関につなぐ地域ボランティア。

● 超高齢社会

　　高齢化率が21％を超え、５人に１人以上が高齢者である社会。

● 点訳奉仕員

　　視覚に障害のある人のために、墨字の点字訳を行うボランティア。

● 特定教育・保育施設

　　市町村長が施設型給付の支給に係る施設として確認する「教育・保育施設」を言い、施設型給付を受けず、私学助成を受ける私立幼稚園は含まれない。（子ども・子育て支援法第27条）

● 特定施設

有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）などにおいて、介護保険の居宅サービスのひとつである特定施設入居者生活介護の指定を受けた施設。食事や入浴などの日常生活上の支援や、機能訓練などを施設内の職員が提供する。

● 特別支援学校

　　従来の盲学校・ろう学校・養護学校の制度を弾力化し、複数の障害種別を教育の対象とすることのできる学校として創設。平成19年４月施行。

● 特別支援教育

　　従来の特殊教育の対象障害だけでなく、学習障害（ＬＤ）、注意欠陥・多動性障害（ＡＤＨＤ）、高機能自閉症を含め、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた適切な教育や指導を通じて必要な支援を行います。

【な行】

● ニーズ

　　必要性。要求。

● 二次医療圏

入院ベッドが地域ごとにどれだけ必要かを考慮して、決められる医療の地域圏。手術や救急などの一般的な医療を地域で完結することを目指す。[厚生労働省](https://kotobank.jp/word/%E5%8E%9A%E7%94%9F%E5%8A%B4%E5%83%8D%E7%9C%81-176327)が、「[医療法](https://kotobank.jp/word/%E5%8C%BB%E7%99%82%E6%B3%95-32480)」に基づいて、地理的なつながりや交通事情などを考慮して、一定のエリアごとに定める。複数の[市町村](https://kotobank.jp/word/%E5%B8%82%E7%94%BA%E6%9D%91-521001)を一つの単位とし、都道府県内を３～20程度に分ける。一般的に１次[医療圏](https://kotobank.jp/word/%E5%8C%BB%E7%99%82%E5%9C%8F-670341)は市町村、３次医療圏は都道府県全域を指す。

● 日常生活自立支援事業

　　軽度の認知症のある高齢者や知的障害・精神障害のある人に対して、福祉サービスの利用援助と日常的な金銭管理・書類等の預かりサービスを行う、全国の社会福祉協議会が実施している事業。

● 乳児家庭全戸訪問事業

　　生後４カ月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境等の把握を行う事業。

● 認知症

いろいろな原因で脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなることで、認知機能が低下し、様々な生活のしづらさが現れる状態のこと。

● 認知症カフェ

認知症の人と家族、地域住民、専門職等のだれもが参加でき、集う場。

● 認知症キャラバンメイト

地域で暮らす認知症の人やその家族を応援する「認知症サポーター」をつくる「認知症サポーター養成講座」の講師役となる人。

● 認知症ケアパス

認知症の人ができる限り住み慣れた自宅で暮らし続け、また、認知症の人やその家族が安心できるよう、認知症の状態に応じた適切なケアの流れを示したもの。

● 認知症サポーター

　　認知症について正しく理解し、偏見を持たず、日常生活の中で、認知症の方が困っているのを見かけたときに声をかける等、自分のできる範囲で、認知症の人やその家族を見守り、支援する人のこと。

● 認知症初期集中支援チーム

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的（おおむね６か月）に行い、自立生活のサポートを行うチーム。

● 認知症地域支援推進員

認知症疾患医療センターや医療機関、介護サービス及び地域の支援機関をつなぐコーディネーター。

● 認定こども園

　　保護者が働いているかどうかに関わらず、小学校就学前の子どもに教育・保育を一体的に提供する機能と、地域における子育て支援として相談活動や親子の集いの場の提供などを行う機能を併せ持つ施設。

● ノーマライゼーション

　　障害のある人を特別視するのではなく、社会の中で普通の生活を送ることができるような条件を整えるべきであり、共に生きる社会こそノーマルな社会であるという考え方。

【は行】

● 配食サービス

　　食事の支度が困難な高齢者に定期的に食事を配達し、食生活の改善と安否確認を行うもの。

● パブリックコメント

公的な機関が規則、命令あるいは計画などを制定しようとするときに、広く公（パブリック）に、意見・情報・改善案など（コメント）を求める手続をいう。

公的な機関が規則などを定める前に、その影響が及ぶ対象者などの意見を事前に聴取し、その結果を反映させることによって、よりよい行政を目指すものである。

通称パブコメ。

● バリアフリー

　　障害のある人や高齢者等にとって障壁（バリア）となるものを取り除き、快適な生活を送ることができる社会を目指すという考え方。現在は、道路や施設の段差等の物理的な障壁だけでなく、社会的・制度的・心理的な障壁を取り除くという意味でも用いられる。

● 病児保育事業

　　病児について、病院、保育所等に付設された専用スペース等において、看護師等が一時的に保育等をする事業。

● 福祉委員

地域住民と協力して地域の見守りや福祉課題を民生児童委員、社会福祉協議会、自治会等と連携して解決を図り、福祉のまちづくりに関する身近な福祉活動を推進する役割を担う。

● 福祉有償運送

　　障害のある人や高齢者等、単独で公共機関を利用して移動することが困難な人を対象に、ＮＰＯ法人等が有償で行う車両による移送サービス。

● ヘルプマーク

　　義足や人工関節を使用している人、内部障害のある人や難病の人など、

援助や配慮を必要としていることが外見からわからない人が、周囲の人に

配慮を必要としていることを知らせることにより援助を得やすくするマーク。

● 保育の必要性の認定

　　保護者の申請を受けた市町村が、国の策定する客観的基準に基づき、保育の必要性を認定した上で給付を支給する仕組み。（子ども・子育て支援法第19条）

【認定区分】

① １号認定子ども：満３歳以上の学校教育のみ（保育の必要性なし）の就学前子ども

② ２号認定子ども：満３歳以上の保育の必要性の認定を受けた就学前子ども（保育を

必要とする子ども）

③ ３号認定子ども：満３歳未満の保育の必要性の認定を受けた就学前子ども（保育を

必要とする子ども）

● 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）

　　保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に児童館や小学校の余裕教室等を活用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業。

● ボランティア

　　個人の自由な意思によって金銭的対価を求めず、社会的貢献を行うこと、及びそれに携わる人のこと。

【ま行】

● 民生委員・児童委員

　　民生委員法に基づき厚生労働大臣に委嘱され、地域住民に対する見守りや生活課題に関する様々な相談等、行政や関係団体と協力しながら支援を行う人。

　　なお、民生委員は児童福祉法第16条第２項の規定により児童委員も兼ねており、特に主任児童委員は児童福祉法に関することを専門に担当している。

● モニタリング

　　サービス利用計画の実施状況を把握すること。計画の目標に沿っているか、質や量の不足はないか、利用者の満足度を確認し、その結果により次の計画を検討する。

【や行】

● ユニバーサルデザイン

　　障害の有無、年齢、性別などの違いを超えて、だれもが利用しやすいよう、あらかじめ配慮して、まちづくりや建物、施設、製品などをデザインしていこうという考え方。

● 養育支援訪問事業

　　養育支援が特に必要な家庭を訪問し、養育に関する指導・助言等を行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する事業。

● 要介護

　　身体上又は精神上の障害があるために、入浴、排泄、食事等の日常生活における基本的な動作の全部又は一部について、一定期間にわたり継続して、常時介護を要すると見込まれる状態。

　　介護保険では、本人の状態に応じて、要介護１～５の５段階の認定が行われる。

● 要支援

　　要介護状態まではいかないものの、一定期間にわたり継続して、日常生活を営む上で支障があると見込まれる状態。

　　介護保険では、本人の状態に応じて、要支援１～２の２段階の認定が行われる。

● 要支援・要介護認定率

被保険者に対する要介護・要支援認定者の割合。通常は第１号被保険者に対する第１号被保険者の要介護・要支援認定者をいう。

● 要保護児童対策地域協議会

虐待を受けた児童などに対する適切な保護や支援を図るための情報交換や支援内容の協議を行う関係機関の協力体制。児童福祉法第25条の２の規定により、地方公共団体は設置に努めなければならない。

【ら行】

● ライフステージ

　　人生の各段階。幼少期、青年期、壮年期、老年期などの段階に分けられる。

● 理学療法士

医師の指示の下に、身体に障害のある方に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加える専門職。

● リハビリテーション

機能回復訓練も含めて、残っている「心身機能」を活用し、日常生活の「活動」、社会への「参加」に対するそれぞれの働きを通じて生活機能を向上させ、「自分らしく生きる」ことや「人間らしく生きる権利の回復」のために支えていく活動。

● 利用者支援事業

　　子ども又はその保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供及び必要に応じて相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施する事業。

● 朗読奉仕員

　　視覚に障害にある人のために墨字を読み上げ、カセットテープ等に録音するボランティア。

宮津市子ども・子育て支援事業計画（抜粋）

(平成27年度～平成31年度)

**『基本理念　子育てにやさしいまち　みやづ』**

**６つの重点プロジェクト**

**〇放課後児童クラブの充実**

放課後児童クラブの受入れを６年生まで拡大するため、受入施設の確保や施設整備に努めるとともに、障害児の受入体制の充実、指導員等の質の向上を図ります。また、放課後児童クラブの運営について、開所時間の延長や社会福祉法人等への委託を検討します。

**〇保育所保育料の軽減**

保育所に入所している世帯に対して、保育所保育料の負担軽減を実施します。多子世帯の経済的負担を軽減するため、18歳未満の児童が3人以上いる世帯の第3子以降に係る保育料を免除します。（所得制限あり）

**〇子育て支援センターの充実**

**（地域子育て支援拠点事業）**

「宮津市子育て支援センター」と「げんきっこ広場」を統合するとともに、「ペップ・キッズ・ガーデン」の常設化や子ども・子育て支援法で創設された利用者支援事業（総合案内窓口）の機能などを集約し、総合的な子育て支援の拠点施設を整備します。

**〇幼稚園教育・保育の充実**

保護者のニーズも見据え、在園児の一時預かり事業や３年教育の実施など、教育・保育体制の充実を図ります。

**○図書館の充実**

「学びの場」としての図書館本来の機能充実や多機能化を図る中で、子育て情報の提供や読み聞かせなど「子育ての場」としての機能を充実し、図書館ならではの子育て支援サービスが提供できる施設の整備を検討します。

**〇中学校の給食の実施**

中学校給食の早期の完全実施に努めます。地元食材の調達ネットワークの整備や給食調理室内に研修室の設置を検討するなど、食育の取組を推進します。

第８次宮津市高齢者保健福祉計画　第７期宮津市介護保険事業計画

**地域が一体となって高齢者を支える仕組みの構築と、地域住民を主体とした自主的な取組やボランティア活動を推進するとともに、引き続き生活支援・介護予防サービスの担い手を養成します。**

**○生活支援コーディネーターの活動支援・**

**協議体の開催**

**○宮津市社会福祉協議会への支援**

**○災害時要配慮者への支援**

**○福祉教育の推進**

**支え合いの仕組みづくり**

**高齢者一人ひとりが健康や介護予防への関心を高め、介護を必要としない高齢者が要介護状態とならないよう、また、要介護者が現在の生活機能を維持・改善できるように介護予防の取組を総合的に推進します。**

**○介護予防・日常生活支援総合事業の**

**推進**

**介護保険制度の周知・情報発信、介護サービスや高齢者福祉施策の充実を図るとともに、適切なサービスが提供されるよう努めます。**

**○地域密着型サービスの充実**

**適切な介護サービス等の提供**

**さらに増加する介護需要に対応し、京都府との連携・協働により、介護・福祉人材の育成・確保を推進します。**

**○福祉人材の育成・確保の推進**

**○宮津総合実習センターの運営支援**

**介護・福祉を支える人材の確保**

**認知症予防を進めるとともに、認知症への理解を深めるため、正しい知識の普及・啓発をより一層推進し、早期発見・早期対応に向けた取組や本人や家族に対する支援を継続的に進めます。**

**○認知症総合支援事業の推進**

**○認知症の人とその家族の支援**

**○高齢者の安全確保**

**認知症施策の推進**

**医療、介護、介護予防、生活支援、住まいの各サービスが切れ目なく、一体的に提供される地域包括ケアシステムを推進します。また、医療や介護、福祉等の多職種の連携や地域ケア会議等の更なる充実を図り、在宅療養の支援体制づくりを推進します。**

**○地域包括支援センターの機能強化**

**○在宅療養多職種連携の推進**

**○地域ケア会議・個別ケア会議の充実**

**地域包括ケアシステムの推進**

**老人クラブや自主的なグループ活動への支援、高齢者の就労・活躍する地域づくりに取り組むとともに、生涯学習の普及・推進など、高齢者の生きがいと健康づくりにつながる各種施策を推進します。**

**○地域活動などの担い手の育成・支援**

**○ボランティア活動の促進**

**元気な高齢者の社会参加の促進**

**「いきいき健康長寿のまち“みやづ”推進プラン」に基づき、多様な視点から健康づくり運動を推進し、市民の健康寿命の延伸を図ります。**

**○いきいき健康長寿のまち“みやづ”推進プランの推進**

**健康づくりの推進**

**１ 住み慣れた地域で自分らしく暮らせるまち**

**２ 地域で支え合うまち**

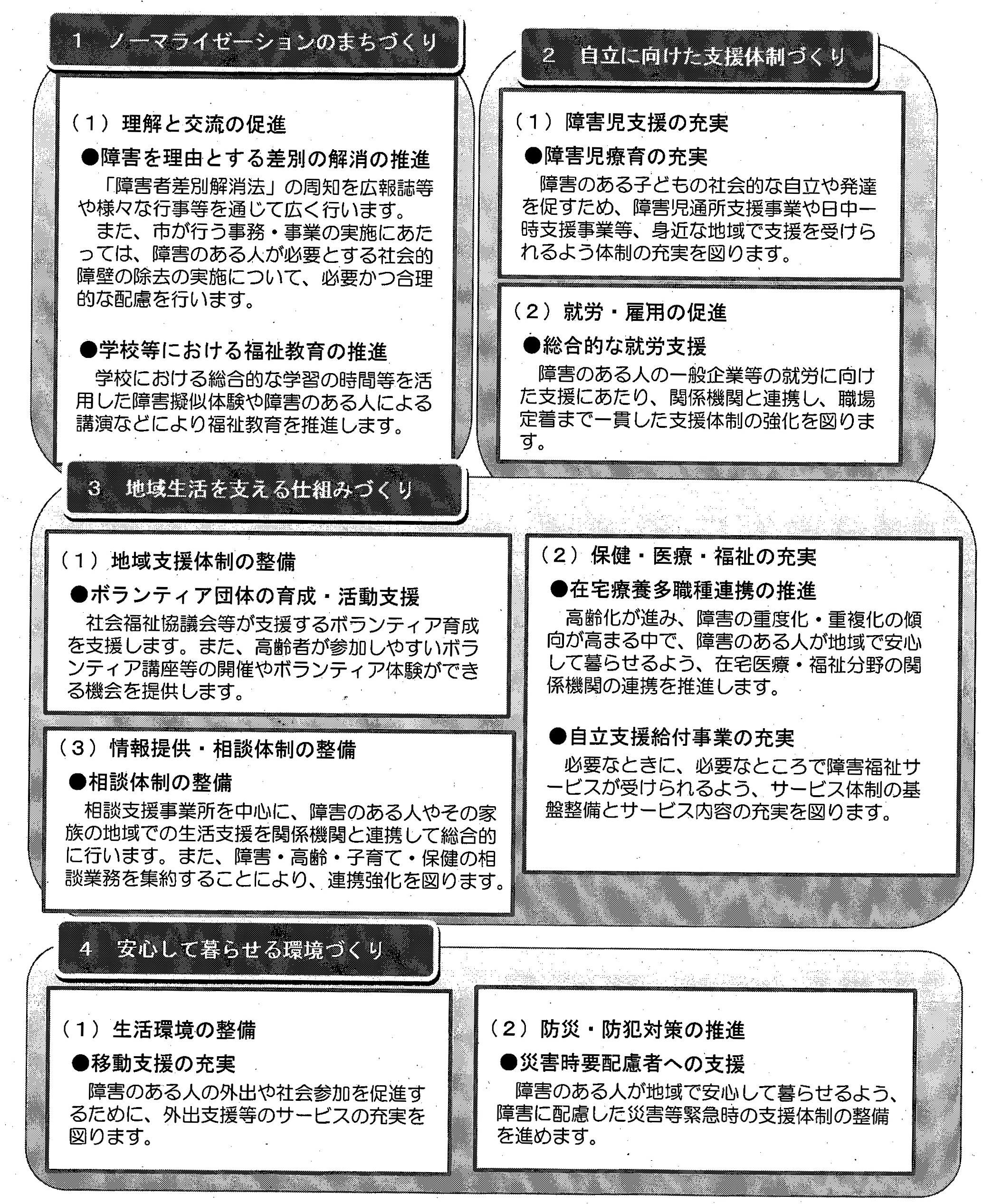
**３ 生涯現役のまち**

**４ サービスを利用して安心して暮らせるまち**

**自立支援・介護予防の推進**

宮津市障害者計画

第５期障害福祉計画　第１期障害児福祉計画

**重点施策**

いきいき健康長寿のまち“みやづ”推進プラン

【６つの重点施策の取組内容】

① 健康づくり運動の推進

　　○ 運動の質的向上

　　 ・｢運動効果の可視化」を念頭に置いた活動量計事業の充実

　　 ・｢運動の習慣化」に向けた他事業（実践活動センター等）との連動

② 食による健康づくりの推進

　　○ 食生活改善推進員事業の充実

・フェイスブック等を活用した活動ＰＲにによる認知度向上

　　○ 食改善意識の向上

・食生活講座　　・特定保健指導との連携　　・広報誌を活用した啓発

③ 病気の予防・早期発見の推進

　　○ 健診受診率の向上

・受診勧奨　　・土日健診　　・ネット申込サービス

・実施場所変更による利便性向上　　・乳がん個別受診制度の導入

○ 特定保健指導の充実

・メタボ予防の運動教室に食事面のアプローチを付加

・糖尿病予備群への健康指導

④ 介護予防の推進

　　○ 地域包括ケアシステムの構築

・多職種連携の促進　　・総合事業メニューの充実

○ おでかけ介護予防の推進

・出前講座、健康相談等

⑤ 住民主体の取組の推進

　　○「健康広場」を実施主体とする健康づくり事業の充実

・活動の幅の広がりや質の向上、活動を支えるリーダーの充実を側面的にサポート

　　○ 高齢者に対するボランティアの参画推進

○ 自己健診の啓発

・乳がん自己健診（セルフチェック）の重要性や方法の周知　など

○ 健康づくり意識高揚のための市民講座の開催

⑥ 他市町住民との交流による機運の醸成

　○「健康のまちづくり友好都市連盟」への参画による他市町との交流促進